【1C1S102】教職論	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	必修	講義	30時間

教員	猿井　久美子
資格・制限等	幼免･保資必修
授業内容	子どもを保育することでその生涯に大きな影響を与える重要な仕事である保育職について、現場のしくみや具体的な事象、保護者や地域等との連携の実態などの様々な面から学び、保育士の役割や制度的位置付け、専門性、キャリア形成等について考えることで、その職務内容に関する理解を深めていきます。

実務家教員	
授業方法	講義を中心に課題解決学習等を取り入れながら、グループワークや個別発表活動を行います。知識の理解だけでなく、保育職について自ら考え、表現する力の形成を目指して展開していく予定です。今期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、グループワークや個別発表を実施しないこともあります。

到達目標

知識・理解	保育職に必要な役割や倫理、保育士の位置づけや専門性、保育者の連携と協働、キャリア形成等についての基礎的な知識を理解することができる。	◎
思考・判断・表現	保育職の適性について考え、指導や支援にあたって求められる基本的な思考や判断の内容がわかり、それらを適切に表現することができる。	○
技能	保育職に必要となる基礎的な技能を理解して身に付けることができる。	△
関心・意欲・態度	保育職に興味や関心をもって学ぶ意欲を高め、学習内容を積極的に身に付けようと努力して学修に取り組むことができる。	○
備考	◎･○･△の記号は幼児教育学科のDP及び到達指標との関連を示します。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	45	15	-	-	60
課題・レポート・発表	-	10	10	10	30
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	45	25	10	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	提出課題は内容、表現方法、完成度等を評価してフィードバックします。
テキスト	『保育者論（新基本保育シリーズ７）』監修　公益財団法人　児童育成協会　　編集　矢藤誠慈郎　天野珠路　中央出版(2,200円)ISBN:978-4-8058-5787-8
参考書・教材	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年告示 文部科学省）、「保育所保育指針」（平成29年告示 厚生労働省）、「幼稚園教育要領解説」文部科学省「『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、「保育所保育指針解説」（平成30年 厚生労働省）

内容

実施回	授業内容・目標
1	保育者の役割・職務内容　　保育所保育士および幼稚園教諭の役割と職務内容について、保育所保育指針および幼稚園教育指針から学ぶ、遊び場面での事例をもとにして、子どもの心身の発達をうながす保育や保育者の役割について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
2	保育者の倫理　　専門的倫理の概念と必要性、法律との違いについて概観し、全国保育士会倫理綱領などをもとに保育者に必要な専門的倫理の内容を学ぶ。保育実践において生じる倫理的ジレンマの事例から解消方法について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
3	保育者の資格と責務　　保育士の法的・制度的特質を学びながら、その資格の在り方や責務について理解し、専門職性について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
4	保育者の資質・能力　　保育者自身および保育の対象やチームワーク・協働性に求められる要素について学ぶとともに、自分自身の資質や能力への気づきとそれらを身に付ける方法について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
5	養護および教育の一体的展開　　保育所保育および幼稚園での養護と教育の具体的な内容と実践について学ぶ。養護と教育が一体となった保育実践について事例をもとに考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
6	家庭との連携と保護者に対する支援　　家庭との連携と保護者に対する子育て支援との関係、保護者が置かれている社会的な現状を把握し、保育所等における子育て支援の基本、園の特性を活かした支援、地域や関係機関との連携について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
7	計画に基づく保育の実践と省察・評価　　計画・実践・評価・改善を継続的に実施するPDCAサイクルの必要性を理解し、保育における具体的なPDCAの在り方について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
8	保育の質の向上　　保育の質を向上させるための具体的な手立てと評価の在り方について、個と仲間の相互関係や個を見る視点、全体を把握する視点から具体的に学ぶ。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
9	保育における職員間の連携・協働　　保育現場における保育力は、保育士の専門的知識・技術および保育士間の協働性や教育体制、連携に大きく関わっていること保育におけるを理解し、保育における協働の広がりとその可能性について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
10	専門職間および専門機関との連携・協働　　保育現場における専門機関との連携や協働の実際から、子どもの健康と安全を保障し、穏やかな育ちを支えていく重要性について理解し、その背景等について考察する。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
11	地域社会との連携・協働　　保育所が地域にひらかれた社会資源として地域のさまざまな人や場とつながり連携を強めていくことの必要性を理解し、保育現場における地域社会との連携や協働がどのように実施されているか具体的に学ぶ。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）

内容	
実施回	授業内容・目標
12	関係機関等との連携　　さまざまな子育て家庭のニーズに対応できる地域型保育事業の概要や連携、定義について学ぶ。保育の魅力と安全対策、遊びの特徴、保育所等との連携など家庭的保育の実際と今後について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
13	資質向上に関する組織的取組　　保育所保育指針をふまえた資質向上に関する組織的取組の考え方について学ぶ。園内研修の実践例から研修を行う際の工夫や配慮について考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義　　保育所保育指針に示された専門性をふまえ、保育者の専門性の向上の道すじについて考え、保育者の発達段階モデルと発達をうながす要因について学習する。保育士のキャリアパスとキャリア形成の実際について学ぶ。 保育のおけるリーダーシップ　　個々の保育力を十分に出し合えるようなキャリアアップ研修、保育におけるリーダーシップの基盤と技法等について学び、保育の質を向上するマネジメントについて考える。 [課題（復習）]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。（4h）
15	保育実習Ⅱ実施のため、授業時間内に筆記試験を行う。 [課題（復習）]前期授業のまとめと自己評価を行う。（4h）

時間外での学修	[課題]は授業の到達目標達成に必要となります。（　）の標準学修時間をめどに取り組みましょう。提出や授業で活用し、評価に含めれます。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	保育士としての資質と能力を確実に身に付けることができるように積極的に学習に取り組んでください。 オフィスアワーは、授業後に教室で行います。

【1C1B104】子ども家庭支援論	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	今村　民子
資格・制限等	保資必修
授業内容	子育て家庭支援の意義や目的を理解し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の必要性や支援の方法について理解します。また子育て家庭に対する現在ある支援の体制について学び、子育て家庭に求められているものは何かを検討していきます。

実務家教員	笠松町ことばの教室職員5年		
授業方法	講義が中心になります。グループワークを取り入れた支援方法の演習もあります。		
到達目標	知識・理解	子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。	◎
	思考・判断・表現	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。	◎
	技能	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開方法について学ぶ。	○
	関心・意欲・態度	子育て家庭に対する支援体制について理解を深め、子ども家庭支援の現況と課題について検討する。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
期末筆記試験	40	-	-	-	40
レポート	-	30	-	-	30
課題への取り組み姿勢	-	-	20	-	20
授業参加態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	30	20	10	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	授業の最初に模範的なレポートを示してコメントします。
テキスト	『実践　子ども家庭支援論』松本園子／永田陽子／福川須美／森和子　ななみ書房ISBN:978-4-903355-78-8
参考書・教材	「保育所保育指針」フレーベル館　「幼稚園教育要領」フレーベル館　「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館　その他授業中に紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション　子ども家庭支援の意義と必要性：子どもの育ちに対する家族・家庭の役割を理解する。家族図の作成を学ぶ。［課題（復習）］家族図を理解して作成する。（4h）
2	子育て家族・家庭の動向：家族の変化、仕事、居住について、少子化について現状を理解する。課題についてレポートで確認する。［課題（復習）］「子育て」について家族（母や祖母）にインタビューし事後感想を持ちレポートにまとめる。ﾃｷｽﾄ第1章2を読んで内容を深める。（4h）
3	現代の子育ての困難さ：地域の喪失、子どもの減少など困難な事項について学び、これからの子ども家庭支援を考える。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第1章3の内容を読み深める。（4h）
4	子ども家庭支援の目的、対象と内容：子育て家庭の危機対応能力のレベルと支援内容について理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第2章1，2の内容を深める。（4h）
5	保育士に求められる基本的態度1：相談支援の方向性や相手の気持ちを理解する基本的態度をグループワークで学ぶ。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第2章3の内容を深める。（4h）
6	保育士に求められる基本的態度2：受容や共感的理解についてﾛｰﾙﾌﾟﾚｲを行って理解する。［課題（復習）］内容を記録して事後の反省をレポートにする。（4h）
7	保育士に求められる基本的態度3：相談・支援への心配りについて理解し、KJ法で必要な項目を見つける。［課題（復習）］支援姿勢について自分なりの考えをまとめる。（4h）
8	保育士に求められる基本的態度4：育てにくさや障害のある子どもを持つ家庭への支援方法を理解する。［課題（復習）］保護者に寄り添うとはについてレポートにする。（4h）
9	育児モデルとなる伝承の育児法：伝承されている育児の知恵について理解し育児の中で活かす遊びを学ぶ。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第2章4の内容を深める。（4h）
10	保育所利用家庭への支援：在園児家庭との関係作りについて必要な支援方法を理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第3章1，2の内容を読み深める。（4h）
11	地域の子育て家庭への支援：子育てひろばでの支援やスタッフの役割について理解する。［課題（予習）］子育てサロンで学んだことをまとめておく。（4h）
12	父親の子育てへの支援：父親への子育て支援の視点を学び、支援の実際を理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第3章4の内容を読み深める。（4h）
13	要保護児童家庭への支援：要保護児童家庭の危機対応能力の位置づけを学び、支援方法を理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第3章5の内容を読み深める。（4h）
14	子育て家庭に対する支援の体制：子育て家庭支援の制度の内容を理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第4章の内容を読み深める。（4h）
15	世界の子育て：先進的な子育て支援を行っている国の特徴を学び支援の方法を理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第5章の内容を読み深める。（4h）

時間外での学修	子育て家庭の姿について関心を持ちましょう。テレビや新聞などの情報から課題を持ち考えたり調べたりすると力がつきます。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	子育てする家庭や家族に心を寄せることができるよう学んでいきます。子育てを支える連携機関や地域子育て支援など広い視野を持つことを期待します。オフィスアワー：H204 研究室毎週金曜16：20～17：00

【1C1S108】社会的養護Ⅰ	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	松村　齋
資格・制限等	保資必修
授業内容	少子高齢、景気の低迷、社会不安など、子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。それは、一般家庭における児童虐待の報告件数にも現れ深刻さを増し、また、児童養護施設に入所あるいは里親委託された社会的養護児童の中にも虐待児の占める割合が増加しています。授業では、子どもの権利や児童虐待について考え、社会的養護の制度や内容を理解し、根拠に基づいたケースの理解と援助の方法を学びます。主体的・対話的で深い学びを促進する状業での学修活を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援なども必要に応じて実施する。
実務家教員	学校教員20年
授業方法	講義と演習　授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。【課題】あらかじめ、学生ポータルや資料等で課題が明確になるよう周知を行ないます。必要に応じてオンラインによる双方向の授業も行います。フィードバックとして理解度確認レポートを回収後、必要に応じて解説致します。

到達目標		
	知識・理解	児童の社会的養護についての深い知識を持ち、現状と課題を理解して説明ができる。　◎
	思考・判断・表現	保育者として様々な価値観に対応できる柔軟さを身につけることができる。　○
	技能	保育者として児童に対して有効な手だてを講ずるためのアセスメント力を高める。　◎
	関心・意欲・態度	社会的養護児童のアセスメントを通じて、様々な考えや意見をまとめることができる。　○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	10	20	-	60
発表・レポート	-	5	10	5	20
自己評価	5	-	5	-	10
提出物	-	-	-	10	10
合　計(点)	35	15	35	15	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でのフィードバックを行なう。
テキスト	授業時にプリント配付します。
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 小池由佳・山縣文治『社会的養護』ミネルヴァ書房 増沢高『社会的養護児童のアセスメント』明石書店　　その他 授業時に適宜紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション：進め方、評価方法などの説明　授業の概要を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
2	社会的養護の概要：社会的養護の必要性　専門性を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
3	児童養護問題および政策の特徴：多様化する児童養護施設の取り組みから学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
4	現代社会に暮らす子どもと家庭：日本における子どもと家族の置かれた現状から学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
5	子どもの権利について：人権としての権利　子どもの権利における大人の役割について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
6	児童養護の体系：施設養護、家庭的養護、在宅養護（在宅福祉サービス）等の全体を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
7	児童養護の制度：児童養護の相談機関を知る　児童相談所、児童家庭相談等について具体的に知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
8	施設養護について(1)：児童養護施設について　施設の役割、施設で暮らすこと、施設の問題と課題を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
9	施設養護について(2)：児童養護施設について　当事者の手記より学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)

内容	
実施回	授業内容・目標
10	施設養護について(3)：乳児院について　情緒障害児短期治療施設について 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
11	家庭的養護について：里親とは　現状と課題を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
12	施設養護の実際：日常生活および自立支援について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
13	社会的養護児童のアセスメント(1) 課題に対して小レポートの提出 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
14	社会的養護児童のアセスメント(2) 事例検討を通じて社会的養護児童の援助の難しさを知り、チームアプローチの大切を知る 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
15	社会的養護児童のアセスメント(3)：事例検討を通じてアセスメントを繰り返すことの重要性を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)

時間外での学修	児童養護施設、里親制度に関わる当事者の手記を最低一冊は読んでおいてください。そこから、自らの体験を通じて感じとることも大切な学修のひとつです。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	授業では演習も取り入れます。保育現場には多くの課題を抱えた子ども達がたくさん在籍しています。 子どもを深く愛し、寄り添える保育者になるために学んでいきましょう。 オフィスアワーは、日号館207号室　水曜日16時10分からです。

【1C2S102】子ども家庭支援の心理学	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	大橋　淳子・茂木　七香
資格・制限等	保資必修
授業内容	保育の場で出会う子どもやその家庭への援助を行うためには、目の前の子どもがこれまでどのようなプロセスを辿ってきたか、そしてこの先どのように成長していくようになるかという生涯発達的な視点や知識が必要となります。また、その子どもが育ってきた家庭にはどのような役割や機能があるのか、その家庭は社会の中にどのように位置づけられているか、と全体を俯瞰的に捉える視点も必要です。この授業の前半では人の生涯発達を子ども理解の観点から捉え直し、子どもの精神保健についても学びます(茂木）。後半では、子どもを育てる拠点である家庭・家族とそれを取り巻く社会について学びます（大橋）
実務家教員	茂木：病院臨床心理士6年、学生相談室臨床心理士9年、大橋：幼稚園教諭・保育士28年
授業方法	基本的には講義形式ですが、課題に取り組む、自分自身について振り返って記述する、グループワークに参加する、など能動的な学び（アクティブラーニング）を前提とした方法も取り入れて授業を行います。

到達目標		
知識・理解	子どもの心理的発達を踏まえた援助方法や、子ども家庭支援を適切に行うための知識を修得する。	◎
思考・判断・表現	子ども家庭を取り巻く社会を理解し、子どもの行為を発達段階に応じて分析・判断し、時代のニーズに合わせた支援を行うために必要な視点を持って考えることができる。	◎
技能	子ども家庭支援に必要な技術や情報収集能力を持ち、保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけようとする。	△
関心・意欲・態度	社会事象や子ども家庭の置かれている環境に関心を持ち、自らの実践を振り返って研鑽に努めようとする。	○
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
授業時間内課題	10	10	10	5	35
授業時間外課題	15	15	-	5	35
レポート(2回)	10	10	-	-	20
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	35	35	10	20	100

評価の特記事項	レポート：課題内容はルーブリック(評価基準）とともに提示 授業時間内課題：授業中に記入し提出するワークシートやミニッツペーパー 授業時間外課題：授業終了時に配付し時間外に取り組んで次回授業で提出
ＩＣＴ活用	クラウドサービスsli.doやGoogleフォーム等を用いた意見発表や意見交流の実施
課題に対するフィードバック	フィードバックとして課題やレポートにコメントを返します。
テキスト	『子ども家庭支援の心理学』原信夫・井上美鈴　北樹出版(2,100円)ISBN:978-4-7793-0605-1 教科書は購入して下さい。図表を授業で参照したり余白に補足部分を書き込みしたりして活用します。
参考書・教材	保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考書は授業中に紹介します。補助教材は授業時に適宜配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1　茂木	生涯発達とライフサイクル(第1章）：ライフサイクル論、発達課題、発達領域・発達理論 [課題(復習)]自分のこれまでの人生を振り返り、人生曲線を書いてみる。(2～4h)
2　茂木	乳幼児期（第2章１～３）：愛着の発達、分離－個体化理論 [課題(復習)]乳幼児期の子どもに特徴的な行動を例に挙げ、授業で習った理論で説明する（2～4h)
3　茂木	学童期（第2章4、第3章１）：ピアジェの認知発達、仲間関係の発達、心理社会的問題 [課題(復習)]学童期の発達に与えるコロナの影響について考える(2～4h)
4　茂木	思春期・青年期（第3章2～3）：認知発達、仲間関係と家族関係　アイデンティティステイタス [課題(復習)]今の自分のアイデンティティステイタスを捉え直す(2～4h)
5　茂木	成人期と中年期（第4章1～3）：ライフサイクル論　ライフイベント　職業キャリア [課題(復習)]自分のライフコースについて考える(2～4h)
6　茂木	老年期（第4章4）：知能の変化　サクセスフルエイジング　介護と死の受容 [課題(復習)]絵本を題材にして、発達課題を論じる（レポート課題）(4～6h)
7　茂木	子どもの精神保健（第12章～13章）：生育環境とその影響　レジリエンス　事例演習(ワークシート使用) [課題(復習)]絵本を題材にして、発達課題を論じる（ワークシート）(2～4h)
8　茂木	ワークシートを用いた反転授業　レポート課題交流　発達課題の復習 [課題(復習)]課題に基づいたレポート作成　(4～6h)
9　大橋	家族・家庭の意義と機能（第5章）：家族・家庭の子どもへの影響と機能を支える子育て支援の必要性 [課題(復習)]自分が育ってきた環境と家族の機能を考える。(2～4h)
10　大橋	親子関係・家族関係の理解（第6章）：多様な親子関係、家族ライフサイクルの理解とかかわり方への視点 [課題(復習)]現代の家族・家庭の問題点と愛着行動（アタッチメント）について考える。(2～4h)
11　大橋	子育ての経験と親としての育ち（第7章）：親としての発達とその支援の重要性 課題(復習)]自分の人生曲線を見直してみる。(2～4h)
12　大橋	子どもと家庭の状況（第8章）：現代の多様な家庭状況の特徴と子どもへの影響や課題 [課題(復習)]多様な家庭形態に合わせた支援の実施について考える。(2～4h)
13　大橋	ライフコースと仕事・子育て（第9章）：ライフコース、ワーク・ライフ・バランス [課題(予習)]。結婚・子育てと女性の就業継続の関係について考える(2～4h)
14　大橋	多様な家庭とその理解（第10章）：多様な家庭への支援 [課題(復習)]想定した家庭に合わせた配慮や支援を発表・実演できるように考えをまとめる（2～4h)
15　大橋	特別な配慮を要する子どもと家庭（第11章）：特別な配慮が必要な場合と注意点 [課題(復習)]保育者のニーズや思い、外部機関との連携について考える。（2～4h)

時間外での学修	毎回、授業時間外課題があります。次回授業のワークで用いることもありますので(反転授業）、しっかり取り組んで下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】

受講学生へのメッセージ	「目の前の子ども」と「その後ろにある家庭や社会」との両方を捉える視点をこの授業で培って欲しいです。日常生活や実習、本や映画などで見かけた子どもの姿をたくさん思い浮かべながら、授業に参加して下さい。オフィスアワーは、大橋：木曜日12時10分～13時（H205）、茂木：木曜日11時～12時（A306)です。

【1C2S203】子どもの理解の理論及び方法	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	名和　孝浩
資格・制限等	幼免･保資必修
授業内容	集団討議やロールプレイを通し、子どもを理解するうえでの基本的な考え方やその方法、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。

実務家教員			
授業方法	特にグループワークやロールプレイ形式での事例検討や意見交流を多く行うため、参加態度や発言内容を重視する。		
到達目標	知識・理解	子ども理解に必要な観察的視点や、保育者の援助との関連を説明できる。	○
	思考・判断・表現	子どもの内面理解だけでなく、それを基にした保育者の援助について考えることができる。	◎
	技能	子ども理解のために必要な観察的視点を持ち、内面を読み取ることができる。	◎
	関心・意欲・態度	主体的な学びの姿勢をもち、保育者としての専門性を得られるよう自己研鑽できる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	10	20	20	-	50
受講態度	10	10	10	20	50
合　計(点)	20	30	30	20	100

評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、発表やグループワークの参加態度から総合的に評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	授業コメントの共有や助言、質疑応答などをすることでフィードバックする。
テキスト	
参考書・教材	『保育所保育指針解説書（厚生労働省版）平成30年』フレーベル館 『教育要領と保育指針　幼稚園教育要領解説（文部科学省版）平成30年』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府版）平成27年』フレーベル館

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション 〔課題(予習)〕これまでに経験した保育実践を事例として整理し、まとめておく（1h）
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握 〔課題(復習)〕0～5歳児の発達についてまとめる（3h）
3	エピソード記録の必要性と子ども理解の方法 課題としたエピソードの確認 〔課題(復習)〕自分が経験した保育実践をエピソードとしてまとめる（1h）
4	ロールプレイを通して子どもの発達と内面の読み取りについて考える 〔課題(復習)〕保育者の言葉かけについて自分なりに考え、まとめる（1h）
5	ロールプレイを通して保育者の子どもを捉える視点について考える 〔課題(復習)〕保育者の言葉かけについて自分なりに考え、まとめる（1h）
6	ロールプレイを通して保育者の具体的な援助と方法について考える 課題の確認：課題としてまとめた自分の考えから具体的な保育内容について考えます 〔課題(復習)〕保育者の言葉かけについて自分なりに考え、まとめる（1h）
7	0～1歳児における子ども理解について 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）
8	2歳児における子ども理解について 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）
9	3歳児の子ども理解について①「3歳児の保育記録～前半～」から 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）
10	3歳児の子ども理解について②「3歳児の保育記録～後半～」から 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）
11	4歳児の子ども理解について「4歳児の保育記録」から 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）
12	5歳児の学びについて「5歳児の保育記録」から 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）
13	子ども理解に基づいた遊びを考える保育者の視点 〔課題(復習)〕指導計画作成時にどのような視点から遊びを考えているか振り返る（1h）
14	子ども理解に基づく保育の計画 〔課題(復習)〕これまで自身が作成した保育指導案について資料をまとめる（1h）
15	まとめ 課題の確認 〔課題(復習)〕本授業での学びを振り返り、今後の保育実践に向けて意見をまとめる（1h）

時間外での学修	これまでに蓄積した実習記録から事例を導けるよう、資料をまとめ、整理しておきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	遊びを中心に子どもが学びを深める保育実践力を理解すること。またグループワークや事例検討を通して、多角的に考察・分析する保育者としてのまなざしを育てましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー（H211、月曜15：00～16：00）を活用してください。

【1C2S204】教育相談	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	茂木　七香
資格・制限等	幼免必修
授業内容	保育や教育、療育などを行う際に、主となる活動を支えるための教育相談という仕事があります。この授業ではまず始めに教育相談の歴史や意義を学び、その対象となる相手を理解して適切な援助を行うための基本的な知識や心がまえ、実際に役立つ技法について学びます。特にカウンセリング的アプローチのひとつであるピアヘルピングについて、臨床現場だけでなく日常生活でも実際に使える技法を身につけます。

実務家教員	病院臨床心理士6年・学生相談室臨床心理士9年
授業方法	基本的には講義形式ですが、ピアヘルピングのエクササイズなど、他の人と協力しながら課題に取り組みます。

到達目標		
	知識・理解	教育現場で出会う対象を専門職として援助するために必要な知識を身につけることができる。 ○
	思考・判断・表現	援助する対象の姿を、その心理状態や理解の度合を考慮して総合的に判断し、関わりに活かそうとする。 ◎
	技能	援助する対象を理解し、相手の特性に合ったコミュニケーションを行うことができる。 ○
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自己理解や他者理解に努め、周囲の人々との連携に努めようとする。 ○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
課題（小レポート、最終）	15	15	-	-	30
授業時間内課題	-	15	10	5	30
授業時間外課題	10	10	5	5	30
受講態度	-	-	5	5	10
合　計(点)	25	40	20	15	100

評価の特記事項	レポート：課題内容はルーブリック(評価基準）とともに提示 授業時間内課題：授業中に記入して提出するミニッツペーパーとワークシート 授業時間外課題：授業終了時に配付あるいは告知し時間外に取り組んで次回授業時に提出
ＩＣＴ活用	受講者間の意見交流のため、Sli.doやGoogleフォーム等を授業内で適宜使用します。質問や要望などはメールでも受け付けます（メールアドレスは授業時に連絡）。
課題に対するフィードバック	授業時間外課題については、次回以降の授業で全体に対してコメントします。9回目授業、14回目授業ではレポート課題を用いた反転授業を行います。
テキスト	「ピアヘルパーハンドブック（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社、1500円　ISBN978-4-8100-1343-6）」に基づいて一部の授業を行うので、できるだけ購入して下さい。
参考書・教材	保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 必要な教材は授業時に配付します。参考書なども適宜紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	教育相談の基礎知識と基本姿勢：専門的なカウンセリングと保育者による教育相談との違い [課題(復習)]カウンセリングと教育相談の違いを整理する(1～2h)
2	カウンセリング概論①：構成的グループエンカウンターの体験 [課題(復習)]授業での体験を振り返る(1～2h)
3	カウンセリング概論②：構成的グループエンカウンターの振り返り　カウンセリングの定義と歴史、その必要性 [課題(復習)]カウンセリングについてまとめる(1～2h)
4	カウンセリングスキル①：ピアヘルピングとは　非言語的技法 [課題(復習)]日常場面で使われている非言語的技法を挙げる(1～2h)
5	カウンセリングスキル②：言語的技法(1)　受容・繰返し・明確化 [課題(復習)]日常会話の中から言語的技法を見つける(1～2h)
6	カウンセリングスキル③：言語的技法(2)　支持・質問 [課題(復習)]カウンセリングスキルを用いた教育相談のシナリオを考え小レポートを作成する。
7	カウンセリングスキル④:対話上の諸問題への対処法 [課題(復習)]日頃の自分の対応を授業内容をもとに振り返る(1～2h)
8	カウンセリングスキル⑤：様々な問題への対処法 [課題(復習)]問題対処の方法についてまとめる(1～2h)
9	ピアヘルピング演習：構成的グループエンカウンター再び [課題(復習)]授業での取り組みを振り返る(1～2h)
10	構成的グループエンカウンターの振り返り、遊びについて(遊戯療法) [課題(復習)]自分にとっての遊びについて振り返る(1～2h)
11	心理療法から学ぶ：箱庭療法・コラージュ療法の体験 [課題(予習)]次回の図書館学修で取り組む課題を考える（1～2h）
12	図書館活用：図書館で心にふれる本と出会う　教育相談に役立つ本のまとめ（ワークシート） [課題(復習)]絵本についてワークシートにまとめる（1～2h）
13	教育相談への絵本の活用①　教育相談に役立つ本のプレゼンテーション(前半) [課題(復習)]絵本をもとにしてレポート課題を作成する(1～2h)
14	教育相談への絵本の活用②：教育相談に役立つ本のプレゼンテーション（後半） [課題(復習)]絵本をもとにしてレポート課題を作成する（1～2h）
15	自分自身の心のケア：ストレスマネージメント　気分状態のチェック [課題(復習)]絵本をもとにしてレポート課題を作成する（2～4h）(1～2h)

時間外での学修	毎回の授業時間外課題やレポート課題にしっかり取り組んで下さい。次回の授業で用いることもあります(反転授業）。日常生活では、授業で学修した知識や技法を、身の回りの人とのコミュニケーションに早速活かしてみて下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】

受講学生へのメッセージ	この授業で学ぶピアヘルピングについての学修を活かすために、ピアヘルパー資格試験（12月に実施）にぜひ挑戦してみてください。将来きっと、公私ともにあなたを支える学びの証になります。オフィスアワー：火曜日11時～12時（A306）

【1C2S105】特別支援教育	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	必修	講義	30時間

教員	松村　齋
資格・制限等	幼免必修
授業内容	教育の現場では、特別な教育的ニーズを有する子どもに対して、適正な支援が求められています。本科目では、特別支援教育の意義、対象となる障害に関する基礎的な知識、理解、教育の現状について解説し演習を通じて学びます。主体的・対話的で深い学びを促進する状業での学修活を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援なども必要に応じて実施する。
実務家教員	学校教員２０年
授業方法	講義形式　授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。一部「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。フィードバックとして理解度確認レポートを回収後、必要に応じて解説致します。

到達目標		
知識・理解	特別支援教育の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身につけることができる。	◎
思考・判断・表現	支援者としての考え方と役割を理解し、自分なりの保育者観を持って、問題や課題に向き合うことができる。	○
技能	幼児児童生徒一人ひとりの考え方・学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる。	◎
関心・意欲・態度	連携・ネットワークの視点・方法を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身につけることができる。	○
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	10	20	-	60
発表・レポート	-	5	10	5	20
自己評価	5	-	5	-	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	35	15	35	15	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でのフィードバックを行なう。
テキスト	『子どもと保護者のココロに寄り添う！エピソードで学ぶ！特別支援教育ＡtoＺ』松村　齋　明治図書(1,860円)ISBN:ISBN-10: 4181226107 ありません。
参考書・教材	授業時にプリント配付します。 授業時に適宜紹介します。 特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領（文部科学省）

内容

実施回	授業内容・目標
1	特別支援教育の現状 特別支援教育の意義、学校教育法一部改正による特別支援学校・特別支援学級への転換、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置、個別の教育支援計画の作成、学習指導要領の改訂等を解説する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
2	視覚障害児の理解 視覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
3	聴覚障害児の理解 聴覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
4	知的障害児の理解 知的障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
5	肢体不自由児の理解 肢体不自由の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
6	病弱児の理解 病弱・身体虚弱の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)

内容	
実施回	授業内容・目標
7	重複障害児の理解 重複障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
8	ＬＤ児の理解 学習障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
9	ＡＤＨＤ児の理解 ＡＤＨＤの児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
10	自閉症児の理解 自閉症の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
11	情緒障害児の理解 情緒障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
12	特別支援学校の教育の実際 特別支援学校の教育課程、指導方法、特別支援学校のセンター的機能の実際等を紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
13	特別支援学級の教育の実際 特別支援学級の現状、教育課程の編成、指導の実際等について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
14	通級による指導の実際 通級による指導の位置づけ、教育課程、指導の実際等について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)
15	小学校・中学校等に於ける特別支援教育の実際 通常の学級と通級指導教室の連携、通常の学級における指導体制の整備、校内委員会、研修等について実際を紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)

時間外での学修	特別支援教育に関する当事者の著書を数冊熟読し、当事者の思いが理解できる保育者となれるように常に心がけておいてください。 特別支援教育に関係する学会やシンポジウム等に積極的に参加するようにしてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	幼稚園、小学校等では、現在、特別な教育的ニーズを有する園児児童生徒等の支援は大きな柱のひとつとなっています。積極的な機会を見つけて、学校園等に出向くように心がけてください。 オフィスアワーは、H号館Ｈ２０７号室　水曜日１６時１０分からです。

【1C2S207】子どもの食と栄養	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	選択	演習	60時間

教員	後藤　恵子
資格・制限等	保資必修
授業内容	栄養に関する知識の修得。乳幼児期の食生活や栄養が生涯を通じた健康と考え、食の大切さを知る。 保育現場で子どもの身体状況や栄養状態に応じた食生活支援ができるよう知識・技能を身につける。
実務家教員	
授業方法	2コマ続きの授業ですので、前半は講義形式、後半は課題への取り組みやグループワークなど能動的な学びを前提とした方法も取り入れて授業を行います。ICTを活用した自主学習支援による課題提出とそのフィードバックなども行います。

到達目標		
知識・理解	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な栄養に関する知識を身につけることができる。	◎
思考・判断・表現	時代の変化や様々な価値観、地域の特性に対応できる柔軟性を身につけ、子どもの身体状況や栄養状態に応じた支援ができるスキルを身につける。	◎
技能	食育の基本を理解し、保育実践や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、職員や保護者などと柔軟に関わり連携することができる。	△
関心・意欲・態度	社会に貢献する使命感と責任感をもって、様々な課題に対応するため地域や保護者と連携し、積極的に行動することができる。	○

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験(最終)	20	10	-	-	30
小レポート	10	5	-	-	15
授業内課題	-	10	5	5	20
授業外課題	10	10	5	-	25
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	35	10	15	100

評価の特記事項	小レポートは理解度確認テストを行います。フィードバックとして次回授業に解答の解説を行います。授業時間内課題とは授業中に課題に取り組み提出するワークシートのことです。時間外課題は自宅で取り組んで頂く実習形式のもの及び課題です。実習内容により提出期限を設け、ポータルサイトに提出して頂くか、次回の授業に提出して頂きます。授業態度は授業への取り組みの様子で評価します。 全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	時間内課題・時間外課題について次回以降の授業で紹介しコメントします。
テキスト	『『子どもの食と栄養』監修　公益財団法人　児童育成協会　』編集　堤ちはる　藤澤由美子　中央法規(2,000円)ISBN:978-4-8058-5792-2 実施回1回目の授業からテキストは必要となりますので、必ず準備すること
参考書・教材	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領 必要な資料は随時配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	シラバスの説明、オリエンテーション/ 子どもの健康と食生活の意義(児童福祉施設における食事提供のあり方や支援の必要性を理解し、子どもの健康と食生活の意義について考える) 【課題(復習)】子どもの食生活の現状と課題等授業で学んだ内容をまとめる 演習問題：朝食欠食について食生活に与える影響、解決方法についてレポートする(3～5h)
2	幼児期の心身の発達と食生活(成長に欠かせないエネルギー及び栄養素の必要性を学び、幼児期のお弁当・間食の献立作成を通して正しい食生活のあり方を理解する。また、幼児期特有の食行動について保護者・子ども双方に向けた支援方法を理解する) 【課題(復習)】幼児期の必要な栄養と正しい食生活のあり方について授業で学んだ内容をまとめる 演習問題：偏食や遊び食べなどの指導法についてレポートする(3～5h)
3	乳児期の離乳の意義と食生活(離乳の定義と必要性を理解し、離乳食の進め方、食事の目安、離乳食作りの留意点なども含めて学ぶ。また、子どもの食べる意欲が育つようなかかわりについて理解を深める) 【課題(復習)】離乳食の進め方、離乳食作りの留意点について授業で学んだ内容をまとめる 演習問題：手づかみ食べの重要性についてレポートする(3～5h)
4	【実習】幼児期のお弁当作成(3～5歳のお弁当実習) 【課題】お弁当作成の記録、栄養についての工夫点や作成時の苦労点などレポートする(3～5h)
5	【実習】離乳食作成(離乳時期の調理形態に合わせた離乳食実習) 【課題】離乳食作成の記録、手作り離乳食とベビーフードについてレポートする(3～5h)
6	乳児期の授乳の意義と食生活(乳汁栄養について理解を深める。特に母乳栄養について、その留意点なども含めて学ぶ) 【課題(復習)】乳汁栄養について授業で学んだ内容をまとめる 演習問題：乳児用調整粉乳と母乳についてレポートする(3～5h)
7	栄養素の種類とはたらき（子どもたちに正しい食育を実践するために、また自身が生涯よい食生活を送るために必要な知識を深める） 「乳幼児期の栄養についての理解度確認テスト」 【課題(復習)】各栄養素の種類や働きについて授業で学んだ内容をまとめる 演習問題：栄養素の働きについて正しい食育が実践できるようレポートする(3～5h)
8	栄養の基本(なぜ食べることが大切なのか、子どもの食生活で保育者が心得ておくべきことは何かを学ぶ) 【課題(復習)】栄養の消化・吸収・代謝について、また子どもの栄養の特徴について授業で学んだ内容をまとめる 演習問題：食べ物のゆくえについてレポートする(3～5h)
9	日本人の食生活の目標(日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド、食生活指針を理解し、日本人の食生活の課題を知り、改善につなげるとともに、日本人の健康増進のために保育者として貢献できることを探る) 【課題(復習)】日本人の食文化について授業で学んだ内容をまとめる 演習問題：食事バランスガイドを用いて自分自身の食生活を認識する(3～5h)

内容	
実施回	授業内容・目標
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②(食物アレルギーを正しく理解し、給食での安全な対応ができるように学ぶ。また、誤食によりアレルギー症状が出現した場合の緊急時対応の手順をマニュアルに従って確認する) 【課題(復習)】食物アレルギーの対応について授業で学んだ内容をまとめる 演習問題：アレルギー疾患生活管理指導表をもとに緊急時対応についてレポートする(3～5h)
11	保育における食育の意義・目的と基本的考え(食育推進の基本的な考え方について理解する。また、保育所における乳幼児とその保護者に向けた食育の基礎を学ぶ) 「栄養素について、消化・吸収・代謝についての理解度確認テスト」 【課題(復習)】乳幼児とその保護者に向けた食育について授業で学んだ内容をまとめる　演習問題：食育活動についてレポートする(3～5h))
12	食育内容と計画および評価(食育の取り組みの視点が多様であることを理解し、食育の計画、実施、評価、改善のPDCAサイクルで食育に取り組むことを学ぶ) 【課題(復習)】食育の取り組みについて理解し、計画・実施・評価・改善について授業で学んだ内容をまとめる　演習問題：保育所における食育の年間計画を作成する(3～5h
13	地域や家庭と連携した食育の展開 / 家庭や児童福祉施設における食事(食育の取り組みを行ううえで、配慮すべき地域の関係機関との連携、食生活指導・助言および食を通した保護者への支援について学ぶ。家庭における食生活上の問題点や食事の役割について学ぶ) 【 課題(復習)】保護者への食の支援について授業で学んだ内容をまとめる 演習問題：食育だよりを作成する(3～5h)
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①(感染症をはじめとする急性疾患や日常に管理が必要な慢性疾患など個々の症状や疾患について子どもの食に関する特別な配慮について学ぶ) 【課題(復習)】疾病および体調不良の子どもへの対応について授業で学んだ内容をまとめる 演習問題：脱水症への対応についてレポートする(3～5h)
15	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活(学童期・思春期の発達を支える給食から食育の大切さを学ぶ。また、次世代を育てるという視点から、妊娠期の栄養・食生活について理解を深める) 『最終試験(筆記)』 【課題(復習)】学童期・思春期の成長と肥満や痩せの問題について授業で学んだ内容をまとめる(3～5h)

時間外での学修	講義で学んだことは必ず復習し、分かりやすくまとめておきましょう。 授業で修得した食に関する知識を日常生活の中に取り入れ、実践していきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	生活環境・社会環境が複雑多岐に渡る中、保育現場に対する社会の期待や要望はますます大きくなります。ここで修得した知識を生かせるようしっかり学びましょう。 オフィスアワー：質問等は毎週金曜日の講義の前後と休憩時間に随時対応します。

【1C3S201】保育内容「健康」の指導法	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	今村　民子
資格・制限等	幼免･保資必修
授業内容	領域「健康」は、幼児の心とからだの健康な育ちを中心に扱う領域です。幼児教育における「健康」の位置づけ、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「健康」のねらいと内容について学修するとともに、乳幼児期の健康教育の基本的な理論の理解を深めます。乳児期の運動に関する発育発達についても学び、実際に予想される子どもの活動や子どもが楽しむ身体活動について考えながら、保育者の適切な援助の方法とは何かを学びます。

実務家教員	小学校、幼稚園教諭9年		
授業方法	講義と演習		
到達目標	知識・理解	幼児教育における領域「健康」のねらい及び内容を理解する	◎
	思考・判断・表現	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育を構想する力を養うための保育者の在り方を理解する	○
	技能	領域「健康」におけるの具体的な保育を想定した手立てや環境構成を考える	◎
	関心・意欲・態度	子どもの健康や安全に関心を持って実践を振り返り、適切な援助を行うことができる	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
期末試験	30	-	-	-	30
演習への姿勢	-	20	-	-	20
レポート	-	-	30	-	30
授業参加への態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	30	20	30	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	授業の最初に模範的なレポートを示してコメントします。
テキスト	『演習保育内容健康ー大人から子どもへつなぐ健康の視点』井狩芳子　株式会社萌文書林(1,800円)ISBN:978-4-89347-275-5
参考書・教材	『幼稚園教育要領解説』フレーベル館　『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館　その他必要な資料は配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	授業内容について、オリエンテーションをする。 [課題（復習）]オリエンテーション計画をよく読み、これからの内容を把握する。(1h)
2	子どもの健康な育ちについて考えをまとめよう [課題（復習）]ﾃｷｽﾄ第1部第1章第2章をよく読んで、理解を深める。（1h）
3	子どもの全面発達について考えよう。 　現代っ子の健康課題と対応策を知る。五感を獲得することの大切さを知る。 [課題（復習）]テキスト第3章を読んで内容を理解する。(1h)
4	五感を使う体験をしてみよう：戸外へ出かけて調査、探索し、五感を使って遊びを見つける。課題をミニレポートにまとめる。[課題（復習）]体験した内容を振り返ってまとめる。(1h)
5	五感を使う体験ができる子どものあそびを構成しよう 「みずきの郷」でみつけた遊びを紹介し、子どもの遊びを提案して、紹介する。DVD「自然は友だち」を視聴して自然体験の大切さを話し合う。＜体験学修＞ [課題（復習）]体験した内容を振り返って、理解を深める。（1h）
6	子どもの身体の発達：未熟から成熟への発達の概要とその援助について理解する。 [課題（復習）]第7章を振り返って理解を深める(１h)
7	子どもの運動発達の保障と体力：子どもの運動発達の特徴を理解して運動遊びを構成できるようにする。DV「登ってやる！」を視聴して保育者の関わり方を考える。[課題（復習）]第8章を振り返って理解を深める。(1h)
8	子どもの育ちと遊びの保障：「遊び」とは何かをもう一度考えて、自ら運動遊びをする子どもを育てるための手立てを計画する。[課題（復習）]第13章を振り返って理解を深める。(1h)
9	子どもの育ちと遊びの保障　「運動遊び」の指導計画を考えよう 実習で行うことを想定した、運動遊びを計画する。年齢と場所を設定して、環境構成を考える。活動内容とねらい、保育内容について子どもの動きと保育者の動きを考えて指導案を作成する。［課題］指導案を作成して提出する（1h）
10	子どもの育ちと遊びの実践１　作成した指導案をもとに実際に子ども役と先生役になって運動遊びをやってみて、事後の反省をする。 [課題（復習）]今日の内容を振り返って理解を深める。事後反省のレポートを作成する。(1h)
11	子どもの育ちと遊びの実践2　作成した指導案をもとに実際に子ども役と先生役になって運動遊びをやってみて、事後の反省をする。 [課題（復習）]今日の内容を振り返って理解を深める。事後反省のレポートを作成する。(1h)
12	安全への配慮　子どもの視点に立った安全生活の保障：リスクとハザードの理解し、園庭にある遊具について安全を考えてみる。[課題（復習）]第11章,12章を振り返って理解を深める。(1h)
13	基本的生活習慣獲得の保障1　基本的生活習慣にかかわるさまざまな動作は発達年齢に合わせて指導し、達成感や満足感をも育てるものであることを知る。 [課題（復習）]今日の内容（第10章）を振り返って理解を深める。(1h)
14	乳幼児の食育について　四季を楽しみ、食文化を知る。食育の必要性について知り、園でどのような取り上げ方をすることが効果的か考える。季節を感じる行事食についてまとめる。［課題（復習）］今日の内容を振り返って理解を深める。(1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
15	乳幼児の食育について　園でどのような栽培や食べ方を取り上げることが効果的か考える。 [課題（復習）]今日の内容を振り返って理解を深める。食育の実践を行う計画表を作成して提出する。 (1h)

時間外での学修	実習で経験した子どもの基本的生活習慣、安全への配慮、食育など「健康」の内容に関することについて振り返ってみましょう。また子どもの運動をする姿について、あなたなりのイメージを持ち、どんな支援が必要なのか考えてみましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	子どもが体を動かして遊ぶ楽しさをみなさんといっしょに考えてみたいと思います。 オフィスアワー：H204研究室毎週金曜16:20～17:00

【1C3S203】保育内容「環境」の指導法	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	大橋　淳子
資格・制限等	幼免･保資必修
授業内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「環境」を中心にして、幼児教育のねらい・内容・方法・活動等のあり方を理論と実践の両面から考えていきます。領域「環境」は周囲の様々な環境に、好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことをねらいとしています。そのことをふまえ、乳幼児期にふさわしい生活を通して、環境と関わる力が育つ保育の実現を目指します。

実務家教員	大橋：幼稚園教諭・保育士・28年		
授業方法	講義と演習を含めた授業展開で進めていきます。保育者としての資質を高めるために、体験と自分なりに考える力を重視した授業形態をとります。		
到達目標	知識・理解	自然や周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり自らの感性を磨く。	◎
	思考・判断・表現	理想の保育者像を常に描き、保育技術の研鑽に努める。	△
	技能	保育所保育指針・幼稚園教育要領に於ける人的環境・物的環境の役割を理解し、一人一人の発達 に応じた援助や環境構成をすることができる。	◎
	関心・意欲・態度	職業や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、誰とでも幅広く柔軟に関わることができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	20	-	-	-	20
レポート	10	10	-	-	20
実技試験	-	-	30	-	30
受講態度	-	-	-	20	20
提出物	-	-	-	10	10
合　計(点)	30	10	30	30	100

評価の特記事項	全授業の3分の1以上欠席の場合は、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	Googleフォームや学生ポータル等を用いた意見発表や意見交流、課題提出の実施
課題に対するフィードバック	フィードバックとして課題やレポートにコメントを返します。
テキスト	『事例で学ぶ保育内容　領域　環境』福元　真由美　萌文書林ISBN:978-4-89347-258-8
参考書・教材	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 その他必要に応じて資料配付・紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	幼児教育・保育の基本と環境（第1章）①：幼稚園教育要領や保育所保育指針が示す「環境」の意味ねらい、内容 [課題（復習・準備）]自分の幼児期に過ごした環境や印象についてまとめる。(1h)
2	幼児教育・保育の基本と環境（第1章）②：環境を通しての教育(みずきの郷でフィールドビンゴ) ［課題（復習）］みずきの郷にある自然には、どんなものがあるか分類し、まとめる。(2h)
3	乳幼児の育ちと「環境」（第2章）： 子どもを取り巻く環境と関わりを支える人 [課題（復習）]遊びの環境構成図を作成する。(1h)
4	乳児、1～2歳児の世界と環境（第3章）：この時期にふさわしい環境を構成する保育者の役割 ［課題（復習）]遊びの環境構成図を完成させる。(1h)
5	自然に親しみ、植物や生き物に触れる①（第4章）：自然を取り入れた遊び（植物ヒヤシンス栽培） [課題（復習）]さつまいも掘りの指導案作成する。(1h)
6	自然に親しみ、植物や生き物に触れる②（第4章）：動植物を育てる（さつまいも掘り） [課題（復習）]さつまいも掘りの反省と指導案を完成する。(1h)
7	自然に親しみ、植物や生き物に触れる③（第4章）：自然を取り入れた、季節感を感じる保育の展開 [課題（復習）]みずきの郷の自然を調べまとめる。(1h)
8	ものや道具に関わって遊ぶ①（第5章）：身近なものを使った遊び（自然物制作） [課題（復習）]木の実や木の葉を使った作品を完成させる。(1h)
9	ものや道具に関わって遊ぶ②（第5章）：発達に応じたものや道具（毛糸遊び） [課題（復習）]ものや道具の環境構成についてまとめる。（1h）
10	文字や標識、数量や図形に関心をもつ①（第6章）：文字に親しむ遊び [課題（復習）]文字遊びの種類や展開をまとめる。(1h)
11	文字や標識、数量や図形に関心をもつ②（第6章）：数や数字に親しむ遊び（トランプ） [課題（復習）]トランプ遊びの種類や展開をまとめる。(1h)
12	文字や標識、数量や図形に関心をもつ③（第6章）：量をはかる、図形に触れる遊び（コマ） [課題（復習）]コマ遊びの展開を考えまとめる。(1h)
13	遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ（第7章）：遊びの中での情報 [課題（予習）]年齢に合った凧つくりを調べる。(1h)
14	幼児期の思考力の芽生え（第8章）：子どもの見方や気付きと直接体験（凧制作） [課題（復習）]凧制作の課題と発展をまとめる。(1h)
15	現代の保育の課題と「環境」（第9章）：多様な経験と環境 [課題（復習）]総合的なまとめの復習をする。(2h)

時間外での学修	日頃から、周囲の子どもの姿、自然や季節の移り変わり等に関心をもち、感性を磨きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	幼児にとって、保育者の環境に関わる姿、「感性」が大切になってきます。環境との関わりを通して、幼児の内面に何が育つのか、何を育てようとしているのか、保育者になったつもりでイメージしてください。オフィスアワーは大橋研究室(H205)で毎週木曜日の昼休みです。

【1C3S205】保育内容「表現」の指導法	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	立崎　博則・光井　恵子
資格・制限等	幼免･保資必修
授業内容	保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた主体的・対話的な保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体の動きや五感、音やリズム、ものの色や形や質感など様々な表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し、応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動の構想、計画、指導、実践する力を身に付けていく。
実務家教員	
授業方法	前半は講義を行い、後半は表現活動を中心に授業を展開します。

到達目標		
知識・理解	・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ・領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ・領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。	◎
思考・判断・表現	・幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。	○
技能	・領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育構想に活用することができる。	◎
関心・意欲・態度	・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。	△
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	10	20	-	-	30
ポートフォリオ	30	-	30	10	70
合　計(点)	40	20	30	10	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	プリントのふりかえりを授業で行います。また、発表時にコメントをします。
テキスト	
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します

内容

実施回	授業内容・目標
1	領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現する姿と関連付けることを通して理解する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
2	幼児の発達や学びの過程を理解し、表現活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に考え、幼児の表現における評価の考え方を理解する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
3	幼児の表現あるいは表出について具合的な場面や事例、映像からその表現の背景や要因、幼児の心情・認識・思考及び動き等を考察する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
4	幼児期の表現活動と、小学校の体育、生活、音楽や図画工作その他の様々な教科との学びの連続性について理解し、具体的な実践を考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
5	インクルーシブ保育における表現活動や遊びの可能性について、様々な素材を用いた具体的な事例を通して理解し、保育構想への活用を考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
6	国内外の保育研究や論文やインターネットで発信されている表現活動の実践例から動向や課題を知り、自らの保育構想の向上に取り組む。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
7	感性的な出会いの豊かな音環境をもとに、五感を使った総合的な表現活動の実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
8	手足、身体を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
9	自然や自然物を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
10	身近な素材を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や活動の面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
11	年齢による発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動の遊びを広げるための言葉掛けや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
12	表現における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び、実際に体験することを通し、保育構想に活用できるアイディアを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
13	これまでの学びを踏まえて総合的な表現活動をするために指導案をグループで作成する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
14	作成した指導案に沿って模擬保育を行い、その振り返りと教材研究を深める。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
15	総合的な表現活動の実践を通して、保育における表現活動について考え、自らの保育構想の向上へと繋げていく。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)

時間外での学修	表現活動をするにあたって（準備）道具、環境、アイディアなどを事前に整理し子ども達に伝えたいこと（目的）をもって受講してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	表現を通して子ども達に何を伝えたいか日々考えていきましょう。 オフィスアワー：立崎：（H201）金曜　昼休み、光井：（A307）木曜日　16:10～16:40

【1C3S107】教育方法論	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	必修	講義	30時間

教員	伊藤　和典
資格・制限等	幼免必修
授業内容	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するためには、幼児教育・保育に関わる理論的･実践的知識を深め、教育者・保育者としての資質能力の育成を目指していく必要があります。また、これからの教育者・保育者に求められる教育の方法と技術について、教育や保育の実践に結びつくように、教育メディア（情報機器、視聴覚教材）の活用について、知識と実践力を身につけることも視野に入れながら、学んでいきます。

実務家教員	小中学校教員３７年		
授業方法	基礎的内容の理解を土台として講義を中心にすすめていきますが、必要に応じて適宜グループワークや話し合い活動等を取り入れ、発表を交えて交流して学びを深めることも取り入れて展開していきます。知識を身につけるだけでなく、自身の捉え方や考え方の形成を目指していきます。		
到達目標	知識・理解	これからの社会を担う子供たちに求められる資質や能力を育成するための教育者･保育者に必要な教育の方法や技術、情報機器及び教材の活用について、基本となる知識を理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	教育･保育に必要な指導の技術を踏まえて、情報機器活用と活用能力育成を視野に入れながら、適切な教材の作成･活用に関する基礎的な思考力、判断力、表現力などの能力を身につけることができる。	○
	技能	教育･保育の方法、指導や支援の技術、情報機器及び教材の活用に関連する基礎的な技能を身につけることができる。	○
	関心・意欲・態度	教育･保育とその方法に興味や関心を持ち、自己の資質や能力の向上をめざして積極的に学修に取り組むことができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	25	10	10	-	45
レポート・発表	10	10	10	-	30
自己評価	-	5	-	10	15
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	35	25	20	20	100

評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修取り組み・発表・提出等の状況とします。
ＩＣＴ活用	講義資料をプロジェクタ投影し、解説を加えながら理解が深まるようにします。
課題に対するフィードバック	提出課題には、コメントを入れ返却します。
テキスト	
参考書・教材	「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府他)、「保育所保育指針解説」(厚生労働省)、「小学校学習指導要領解説」(文部科学省)、戸江茂博監修､田中卓也･松村齋･小島千恵子編著「幼児教育方法論」(学文社)、大浦賢治・野津直樹編著「実践につながる新しい幼児教育の方法と技術」(ミネルヴァ書房)。他に必要な資料は配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション:　この授業の目標と内容、教育･保育の方法を学ぶ意義や学び方と心構えなどを理解する。[課題(復習)]「教育・保育」ということについてこれまで学んだことを復習する(2h)
2	教育･保育の方法①:　教育･保育の方法に関する基礎的理論について理解を深めるとともに、子ども理解とその方法について学ぶ。[課題(復習)]学んだ内容に関連した幼稚園・こども園や保育所等での具体的事例を調べてまとめる。(3h)
3	教育･保育の方法②:　教育･保育を構成する基礎的な要件について知識を深め、園における活動と環境、環境構成の具体的方法について理解する。　[課題(復習･発展)]環境構成の具体的方法について、経験した事例に基づいてまとめる(3h)
4	教育･保育の方法③:　日本における保育内容と保育の歴史から現代の保育教育への変遷について学ぶ。[課題(復習)]戦前・戦後の日本の保育の歴史から現代の保育への移り変わりについてまとめる(3h)
5	教育･保育の方法④:　幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育･保育要領による教育･保育について学ぶ。子どもの「主体的・対話的な深い学び」を実現するための具体的実践の在り方について、事例から学ぶ。　[課題(復習)]３要領の改訂のポイントを理解し、これから求められる教育･保育についてまとめる。(3h)
6	教育･保育の方法⑤　保育計画の必要性とその計画の立て方について理解し、保育計画と実践での評価の在り方について学ぶ。　[課題(復習)]３要領の改訂のポイントを理解し、これから求められる教育・保育についてまとめる。(3h)
7	中間まとめ:　授業外学修の課題も活用し、これまでに学んだ内容を復習しながら課題研究として与えられたテーマについてまとめる。　[課題(復習)]まとめの内容を見直し、不十分な点を復習する。(3h)
8	指導支援の方法①:　[課題（復習）]　幼児とのコミュニケーションの図り方について、事例(年齢に応じたコミュニケーション、言葉による伝え合いの育み方)を通して学ぶ。　[課題(復習)]幼児とのコミュニケーションの図り方についてまとめる。(2h)
9	指導支援の方法②:　幼保小連携をふまえた教育･保育のあり方(小1プロブレム、幼児期に育みたい資質･能力)について学び、その連携の重要性を理解する。[課題（復習）]　小1プロブレムと教育･保育についてまとめる。(3h)
10	教育メディアの活用①:　教育メディアをとりまく子どもの現状とこれからの保育について、ICTの普及も踏まえて理解する。　[課題（復習）]教育メディアを活用した実践例とこれからメディア活用の方向性についてまとめる。(2h)
11	教育メディアの活用②:　メディア活用に関する保育者としての懸念と、遊具として情報機器(ICT)を活用する方法を実践例から学ぶ。　[課題（復習）]子どもの教育・保育環境に情報機器(ICT)をどう位置付けるとよいかまとめる。(2h)
12	教育メディアの活用③:　子どもを取り巻く環境の変化とメディアへの依存の危険性について理解し、教育・保育環境のデザインを考えてまとめる。　[課題（復習）]教育メディア活用による子どもへの影響をプラス面マイナス面から考えてこれからの教育・保育の方向性をまとめる。(2h)

内容	
実施回	授業内容・目標
13	教育メディアの活用④:　メディア活用を取り入れた指導案の検討・作成（グループワーク）　[課題（復習）]指導構想にメディアを効果的に活用する方法を検討して指導案の作成をする。(4h)
14	教育メディアの活用⑤:　メディア活用を取り入れた指導案の完成・発表（グループワーク）完成した指導案について発表・交流する。教育者･保育者として教育・保育の方法と技術をどうとらえるかについて、振り返りをする。　[課題（予習）]発表交流に向けて、発表内容の検討と発表練習をする。(3h)
15	教育の方法と技術のまとめ:最終評価のテスト　完成した指導案について発表。教育者･保育者として教育・保育の方法と技術をどうとらえるかについて、これまで学修してきたことからまとめる。[課題(復習)]配付資料に基づいて授業全体を振り返り、必要な内容について確実に復習する(4h)

時間外での学修	[課題]は、授業の到達目標達成に必要となります。(　　)の標準学修時間をめどに、積極的に学修を進めましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：50時間】
受講学生へのメッセージ	講義を聴くだけでなく、実習の成果も積極的に生かしながら自分の考えを発表して理解を深めましょう。 オフィスアワーは講義後A302(A号館3F)で受け付けます。メールでも受け付けます。

【1C3S212】障がい児保育Ⅱ	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	上杉　晴美
資格・制限等	保資必修
授業内容	障がい児保育Ⅱは障がい児保育Ⅰでの学びをふまえ、レポートにまとめたり発表したりすることを通して、障がい理解についてさらに深めるとともに、保育場面での具体的な支援を考えます。

実務家教員	「幼稚園教諭23年」「ことばの教室14年」
授業方法	講義と演習。調べたことをまとめ、発表する活動や他の学生の発表を聞く立場からの学びなども含めて授業を展開していきます。新聞やTV等のタイムリーな記事から事例に触れながら実践的に学びを深めます。

到達目標		
知識・理解	障がいについての基礎的な知識を学ぶ。	◎
思考・判断・表現	障がい特性や支援についてまとめたり、発表したりする事ができる。	◎
技能	積極的に資料を調べ、まとめる事ができる。	○
関心・意欲・態度	積極的に資料を調べ、まとめる事ができる。	○
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	15	15	10	-	40
ワークシート・課題提出・発表	15	15	10	-	40
受講態度	-	5	-	15	20
合　計(点)	30	35	20	15	100

評価の特記事項	発表（プレゼンテーション）がメインになりますが、その資料作り及び当日の発表。また、他の学生の発表からの学び（ワークシートにて他者評価等の記述）等から評価します。受講態度は、学修への取り組み状況、ワークシートや提出物の状況などから総合的に評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	発表に関しては、振り返りカードを用意し各学生がしっかりと自己評価できるようにします。その振り返りカードにコメントするだけでなく、他の学生からの良い発想や建設的な意見などの評価（無記名）もフィードバックすることにより、みんなで共に学ぶという意識が高まり、障がい児保育への学びがより深まっていくと考えます。
テキスト	ありません。
参考書・教材	特別支援　教育・保育概論　－特別な配慮を要する子どもの理解と支援　尾野明美他編著（1年生の時に「障がい児保育Ⅰ」で使用したテキスト） 保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション（この講義で大切にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について） 「障がい」について考える。 自分の調べたテーマを考えて選択する（障がい児保育Ⅰでの学びをふまえて考える） ［課題(復習)］障害児保育Ⅰのテキストを振り返り、学修した内容を復習をしておきましょう。(1h-2h)
2	障がい児保育をささえる理念（1） 幼稚園や保育所での障がいをもつ子への指導上の留意点について考える。 ［課題(予習)］幼保連携型認定子ども園教育要領や保育所保育指針から障害を持つ子への留意点を確認しておきましょう。(1-2h)
3	障がい児保育をささえる理念（2） 障害者差別解消法とその考え方や取り組みについて学ぶ【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］　資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
4	障がいの理解と保育における支援(1) 肢体不自由児の理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］　資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
5	障がいの理解と保育における支援(2) 知的障がい児の理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
6	障がいの理解と保育における支援(3)　発達障がいについて学ぶ① 学習障がい（LD)の子どもの理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
7	障がいの理解と保育における支援(4)　発達障がいについて学ぶ② 自閉症スペクトラム（ASD)の子どもの理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
8	障がいの理解と保育における支援(5)　発達障がいについて学ぶ③ 注意欠如・多動性障がい（ADHD)の子どもの理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、　調べておきましょう。(1-2h)
9	障がいの理解と保育における支援(6) 聴覚障がい児の理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
10	障がいの理解と保育における支援(7) 視覚障がい児の理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
11	障がいの理解と保育における支援(8) 重症心身障がい児、医療的ケア児の理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
12	障がいの理解と保育における支援(9) ことばの発達に障がいのある子どもの理解と支援について学ぶ【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
13	障がいの理解と保育における支援(10) その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援について学ぶ【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)

内容	
実施回	授業内容・目標
14	家庭や関係機関との連携 「保護者や家族に対する理解と支援の方法」「小学校等との連携について」学ぶ。 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に「保護者・家族支援」「小学校等との連携」について、調べておきましょう。(1-2h)
15	まとめ 支援の場の広がりとつながりについて学ぶ。切れ目のない支援をするためにはどうあったらよいか考える。 ［課題(復習)］今日の学修を振り返り、まとめておきましょう。今までの資料を整理しておきましょう。(1-2h)

時間外での学修	事前に資料や参考書を読み、自分なりの考えをまとめておきましょう。保育場面での子どもとの関りをイメージしてみましょう。 また、調べたことをまとめて発表する活動（プレゼンテーション）では、声の大きさ、スピード、話し方も気を付けて話しましょう。まとめる資料は、見たり聞いたりする人の立場になってわかりやすく伝わるようも。聞く立場では、何が重要なことなのか、わからないことは何か、質問できるようにしましょう。主体的に学ぶことが求められます。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	資料や参考書に目を通して授業に臨むようにして下さい。また、参考となる本や雑誌などを進んで読むようにしましょう。また、実際の保育の場で、子ども達とどのように関わるのかイメージしてみましょう。 オフィスアワーは、講義終了後教室にて行います。

【1C3A213】社会的養護Ⅱ	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	松村　齋
資格・制限等	保資必修
授業内容	児童への虐待問題が深刻化しています。その原因として、少子高齢、景気の低迷、社会不安など、子どもを取り巻く環境が大きく変化していることがあげられます。授業では、今一度、子どもの権利や児童虐待について考え、社会的養護の制度や内容を理解し、根拠に基づいたケース（事例）の理解と援助の方法を、より踏み込んで学びます。主体的・対話的で深い学びを促進する状業での学修活を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援なども必要に応じて実施する。

実務家教員	学校教員２０年
授業方法	講義形式　授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。一部「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。フィードバックとして理解度確認レポートを回収後、必要に応じて解説致します。

到達目標		
知識・理解	ケース（事例）を通じて、アセスメントについての深い知識を持ち、現状と課題を理解して説明ができる。	◎
思考・判断・表現	保育者として様々な価値観に対応できる柔軟さを身につけることができる。	○
技能	保育者として児童に対して有効な手だてを講ずるためのアセスメント力を高める。	◎
関心・意欲・態度	関係機関との連携を通じて、様々な考えや意見をまとめることができる。	○
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	10	20	-	60
発表・レポート	-	5	10	5	20
自己評価	5	-	5	-	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	35	15	35	15	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でのフィードバックを行なう。
テキスト	授業時にプリントを配付します。
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 辰己隆・岡本眞幸『保育士をめざす人の社会的養護内容』みらい／小池由佳・山縣文治『社会的養護』ミネルヴァ書房／増沢高『社会的養護児童のアセスメント』明石書店／その他 授業時に適宜紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション：進め方、評価方法などの説明。授業の概要を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
2	子どもの権利について：人権としての権利　子どもの権利における大人の役割について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
3	社会的養護の概要：社会的養護の必要性・専門性を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
4	児童養護問題および政策の特徴：多様化する児童養護施設の取り組みから学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
5	里親制度の現状と課題：里親とは　里親になるには　里親制度の課題等を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
6	新しい施設養護の理念： 児童福祉施設を取り巻く新しい理念　権利擁護につながる第三者評価事業の導入等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
7	社会的養護児童のアセスメント(1)： 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
8	社会的養護児童のアセスメント(2)： 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
9	社会的養護児童のアセスメント(3)： 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)

内容	
実施回	授業内容・目標
10	施設養護のプロセスの理解： 入所前後の援助　施設内のケア（インケア）　退所前後のケア内容等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
11	障害児入所施設における基本的な援助・支援：障害をもつ人とノーマライゼーションについて 日常生活援助　余暇活動　療育援助・支援等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
12	こころの援助(1)： こころの援助とは　施設養護におけるこころの援助　子どもとのコミュニケーション等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
13	こころの援助(2)： こころの援助とは　施設養護におけるこころの援助　子どもとのコミュニケーション等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
14	親子関係の援助：親子関係の援助の姿勢　親子関係の調整における保育士の役割等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)
15	児童福祉施設における保育士の資質と論理： 児童福祉施設で働くということ　援助としての資質を知る　バーンアウトを防ぐために等を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3～6h)

時間外での学修	参考書・教材等で紹介した著書等を中心に図書館等で関連図書を熟読してください。 また、実際に施設の行事等にボランティアとして参加し、見識を深めてほしいと思います。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	日ごろから、各自治体の広報等の情報を収集し、関連する行事やフェスティバル等に積極的に参加をし、当事者の視点にたって視野を広げてほしいと思います。 オフィスアワーは、H号館H207号室　水曜日16時10分からです。

【1C3S115】保育指導計画の方法	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	必修	講義	30時間

教員	名和　孝浩
資格・制限等	幼免･保資必修
授業内容	保育における指導計画の考え方・立て方について理解する。実際の指導計画の作成を通して、子どもの実態を捉え、子どもの生活に見通しをもち、保護者に信頼し安心してもらうことを実現するための、保育の方向性を明確にする。

実務家教員			
授業方法	指導計画作成から評価までの基礎知識についての講義を基にして、実際に指導計画の作成に取り組む。		
到達目標	知識・理解	保育者としての基礎的知識を身につけ、子どもの活動を予想し、それにふさわしい援助を考えた指導計画の作成ができる。	◎
	思考・判断・表現	子どもの姿から実態を把握し、遊びや生活へとつなげることができる。	○
	技能	子どもの動きをとらえ、遊び場や環境の構成、援助を行うために必要となる保育技術の習得をする。	○
	関心・意欲・態度	子どもを取り巻く環境や子どもの人権などに関心をもちながら、自己の実践を振り返り、保育実践力を磨くことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	30	20	20	-	70
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	30	20	20	30	100

評価の特記事項	レポートは授業内で作成した指導計画などを基に評価をします。受講態度は、学修への取組状況、グループワークや発表などから総合的に評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	授業コメントの共有や助言、質疑応答などをすることでフィードバックする。 指導計画の添削や助言を行う。
テキスト	
参考書・教材	厚生労働省/著『保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省/著『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府/著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション・保育の展開における指導計画と役割 〔課題（予習）〕自身がこれまで作成した指導計画の振り返り（2h～4h）
2	乳幼児の発達と指導計画との関連 〔課題（予習）〕園での指導計画と保育実践例の収集（2h～4h）
3	乳幼児の遊びと指導計画（課題として収集した保育実践の確認を行う） 〔課題（予習）〕園での指導計画と保育実践例の収集（2h～4h）
4	短期・長期の指導計画の意義とつながり 〔課題（予習）〕指導計画にどのような種類があるか事前に学習しておく（2h～4h）
5	個別の指導計画について 〔課題（予習）〕個別の配慮が必要となる子どもの指導計画について調べる（2h～4h）
6	指導計画の考え方と方法 これまでの課題の確認 〔課題（予習）〕自身がこれまでに作成した指導計画をまとめ、具体的な課題を振り返る（2h～4h）
7	園での実践を踏まえた遊びの考案 〔課題（予習）〕園で行われている具体的な遊びの収集（2h～4h）
8	指導計画（部分）の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 〔課題（予習）〕指導計画の作成に必要な資料を収集・準備する（3h～4h）
9	振り返りを基にした指導計画の再考 課題の確認 〔課題（予習）〕指導計画の再構成に必要な資料を収集・準備する（2h～4h
10	個別の指導計画の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 〔課題（予習）〕個別の配慮や援助が必要となる子どもの保育におけるねらいや内容を調べる（3h～4h
11	指導計画（日案）の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 〔課題（予習）〕1日の保育の流れを調べ、要点をまとめる（2h～4h）
12	週の指導計画の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 〔課題（予習）〕1週間の保育の流れを調べ、要点をまとめる（2h～4h）
13	年間指導計画の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 〔課題（予習）〕乳幼児期の各クラスの1年間の様子や発達について調べる（2h～4h）
14	行事における指導計画の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 課題の確認 〔課題（予習）〕園で行われる行事を調べ、まとめる（2h～4h）
15	まとめ 〔課題（予習）〕保育実践に役立つ指導計画とはどのようなものかまとめる（2h～4h）

時間外での学修	実習先や普段の生活場面から、指導計画についての情報を積極的に得られるようにすること。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	よりよい保育を実践するために、指導計画の作成はとても大切です。この授業では文章を書くことが多いですが、その先に保育者としての自己の育ちと、現場に出てからの子どもの育ちが待っていることを励みに取り組んでいきましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー（H211、月曜日15：00～16：00）を活用してください。

【1C3S223】幼児と音楽表現Ⅰ	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	光井　恵子・小川　寿実子・春日　有貴江・日比　裕美子
資格・制限等	保資必修
授業内容	領域「表現」での音楽を用いた活動をするためには、様々な音楽的スキルが必要です。この授業では、クラス授業と個人レッスン行いながら、表現活動する意義を考えとともに技術を学びます。クラス授業では、領域「表現」の意義や内容を考え、保育現場での様々な音楽での表現活動の方法を学びます。個人レッスンでは、童謡の弾き歌いの技術を学ぶことを目的とします。
実務家教員	
授業方法	1コマでクラス授業と個人レッスンを受講します。 グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください.

到達目標		
知識・理解	領域「表現」の意義や内容を理解し説明することができる。	△
思考・判断・表現	さまざまな音楽ジャンルの子どもの歌に触れ、表現することができる	◎
技能	子どもの歌を様々な伴奏方法で表現することができる。	◎
関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。	◎
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験・発表	-	20	20	-	40
ポートフォリオ・レポート	10	10	10	-	30
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	10	30	30	30	100

評価の特記事項	受講態度は予習、復習を含めた学修への取り組み状況になります。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	クラス授業：毎回課題の質疑については授業内でフィードバックしていきます。 個人レッスン：毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を示していきます。
テキスト	『こどものうた100』小林美実監修　井戸秀和編　チャイルド本社ISBN:9784805481868
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション クラス授業：領域「表現」の意義や内容を考える① ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：授業の進め方の説明とコードの復習 ［課題(復習)］レッスン曲の練習 (1～2h)
2	クラス授業：絵本を使った表現活動①「おおきなかぶ」の読み聞かせとパート分け ［課題(復習)］自分のパートの台詞の確認 個人レッスン：春の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)
3	クラス授業：絵本を使った表現活動②「おおきなかぶ」パート練習 ［課題(復習)］自分のパートの台詞の確認 個人レッスン：春の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)
4	クラス授業：絵本を使った表現活動③「おおきなかぶ」グループ発表 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：春の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)
5	クラス授業：童謡を使った合奏①　3歳未満児の楽器あそび ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：春の歌の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)
6	クラス授業：童謡を使った合奏②　3歳以上児の楽器あそび・発表曲の練習 ［課題(復習)］自分のパートの練習 個人レッスン：夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)
7	クラス授業：童謡を使った合奏③　発表 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)
8	クラス授業：ミュージックベルを使った表現活動①　奏法とパートの決め方 ［課題(復習)］学修した内容の確認（1h） 個人レッスン：夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1h）
9	クラス授業：ミュージックベルを使った表現活動②　グループ決めとパート決め ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)

内容	
実施回	授業内容・目標
10	クラス授業：ミュージックベルを使った表現活動③　グループ練習 ［課題(復習)］自分のパートの練習 個人レッスン：春・夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
11	クラス授業：ミュージックベルを使った表現活動④　発表交流会 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：春・夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
12	クラス授業：絵本を使った表現活動④　合奏「おおきなかぶ」のパート決め ［課題(復習)］自分のパートの練習 個人レッスン：春・夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
13	クラス授業：絵本を使った表現活動⑤　合奏「おおきなかぶ」の個人練習とパート練習 ［課題(復習)］自分のパートの練習 個人レッスン：試験曲のレッスン ［課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習と発表曲・試験曲の練習 （1～2h）
14	クラス授業：絵本を使った表現活動⑥　合奏「おおきなかぶ」の発表 ［課題(復習)］自分のパートの練習 個人レッスン：グループ発表交流会 ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習と発表曲・試験曲の練習 （1～2h）
15	クラス授業：前期の授業の振り返りとまとめ ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：実技試験 ［課題(復習)］試験曲の復習と実習で使用する曲の予習 （1～2h）

時間外での学修	保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリー曲を増やしてください。 質問等があれば、研究室（A307：A号館3F）へきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	表現活動するにはまずは自分自身が感性を豊かにすることです。常に五感を意識して生活をしましょう。 また、積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻、欠席をしないように心がけましょう。 オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。

【1C3S224】幼児と音楽表現Ⅱ	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	光井　恵子・加藤　有子・佐々　智美・日比　裕美子
資格・制限等	特になし
授業内容	領域「表現」での音楽を用いた活動をするためには、様々な音楽的スキルが必要です。この授業では、クラス授業と個人レッスン行いながら、表現活動する意義を考えとともに技術を学びます。クラス授業では、リズム演習として和太鼓を中心としたリズム楽器で音楽の基礎リズムを確実に身につけます。また、発声法を含めた歌唱方法を学びながら、子どもの歌にたくさん触れていきます。個人レッスンでは、童謡を中心に弾き歌いの技術を向上させていきます。
実務家教員	
授業方法	1コマでクラス授業と個人レッスンを受講します。 グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。

到達目標		
知識・理解	音楽の基礎リズム、簡易伴奏法を知り、	△
思考・判断・表現	さまざまな音楽ジャンルの子どもの歌に触れ、表現することができる	◎
技能	子どもの歌を様々な伴奏方法で表現することができる。	◎
関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。	◎
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験・発表	-	20	20	-	40
ポートフォリオ・レポート	10	10	10	-	30
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	10	30	30	30	100

評価の特記事項	実技試験、発表・受講態度等で評価をします。 受講態度は予習、復習を含めた学修への取り組み状況になります。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	クラス授業：課題の質疑については授業内でフィードバックしていきます。 個人レッスン：授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を示していきます。
テキスト	『こどものうた100』小林美実監修　井戸秀和編　チャイルド本社ISBN:9784805481868
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	クラス授業：リズム基礎練習　四分、八分、十六分音符と休符を用いて ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：秋の歌から選曲し各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(復習)］レッスン曲の練習（ 1～2h）
2	クラス授業：リズム基礎練習　付点の音符と休符を用いて ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：秋の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
3	クラス授業：リズム基礎練習　シンコペーションのリズムを用いて ［課題(復習)］学修した内容の確認（1h） 個人レッスン：秋の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）
4	クラス授業：リズム基礎練習　様々なリズムパターンを用いて ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：秋の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
5	クラス授業：和太鼓オリジナル曲の練習　譜読み ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：冬の歌の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
6	クラス授業：和太鼓オリジナル曲の練習　打ち込み ［課題(復習)］発表に向けての個人パートの練習 個人レッスン：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
7	クラス授業：和太鼓オリジナル曲の練習　仕上げ ［課題(復習)］発表に向けてのパート練習 個人レッスン：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
8	クラス授業：和太鼓オリジナル曲の発表とまとめ ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
9	クラス授業：正しい発声法を知る 個人レッスン：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）

内容	
実施回	授業内容・目標
10	クラス授業：春の歌を使った歌唱法① ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
11	クラス授業：夏の歌を使った歌唱法 ［課題(復習)］学修した内容の確認（1h） 個人レッスン：いろんなの歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）
12	クラス授業：秋の歌を使った歌唱法 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：いろんなの歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌い ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 （1～2h）
13	クラス授業：冬の歌を使った歌唱法 ［課題(復習)］発表に向けての個人パートの練習（1h） 個人レッスン：各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン、試験曲の選曲 ［課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習と発表曲・試験曲の練習（1～2h）
14	個人レッスン：試験曲のレッスン ［課題(予習・復習)］レッスンした内容の復習と発表曲・試験曲の練習 （1～2h）
15	個人レッスン：試験とまとめ ［課題(復習)］レッスンした内容の復習 （1～2h）

時間外での学修	保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリー曲を増やしてください。 質問等があれば、研究室（A307：A号館3F）へきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	表現活動するにはまずは自分自身が感性を豊かにすることです。常に五感を意識して生活をしましょう。 また、積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻、欠席をしないように心がけましょう。 オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で木曜日16:10～16:40です。

【1C3S229】幼児と造形表現Ⅰ	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	立崎　博則
資格・制限等	保資必修
授業内容	造形表現の指導法について、子どもの発達段階について造形ワークショップを実施し段階的に学んでいく。また、発達段階を想定した課題制作を通して、必要な援助について主体的に確認していく。

実務家教員			
授業方法	造形ワークショップの体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。		
到達目標	知識・理解	幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、造形ワークショップを通して子どもの造形の発達段階に即した援助を行うための知識を身につける。	◎
	思考・判断・表現	造形ワークショップでの制作の中で、自分の感じたことや考えたことを自分なりに表現し表現する楽しさを感じるとともに、子どもの表現をどう引き出すかについて思考することができる。	◎
	技能	自らの造形表現の体験から具体的な指導場面を想定して、子ど　もの発達や目的に応じ　た活動とその指導・援助方法を構想する技能を身につける	△
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
作品	-	20	10	-	30
レポート	30	-	-	-	30
ポートフォリオ	10	20	-	10	40
合　計(点)	40	40	10	10	100

評価の特記事項	授業で説明します。
ＩＣＴ活用	Googleフォームやポートフォリオサイトを使い、作品などのフィードバックを行います。
課題に対するフィードバック	作品鑑賞をしコメントする時間を持ちます。授業内でレポートなどのふりかえりを行います。
テキスト	必要な資料は授業で配布します。
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	子どもの作る・表現するを通して ・子ども達の豊かな感性と創造性について育む [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
2	幼児の描画の発達段階 ・クロッキーをしよう ・子どもの絵を真似して描こう [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
3	造形表現と発達段階（4-7歳頃まで） ・ワークショップ通して考える [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
4	造形表現と発達段階（4-7歳頃まで） 造形表現と4-7歳頃までの発達段階 ・ワークショップの振り返り ・素材を研究する [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
5	造形表現と発達段階（4-7歳頃まで） ・年長児との制作 ・制作1 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
6	造形表現と発達段階（4-7歳頃まで） ・年長児との制作 ・制作2 （作品①の提出とレポート課題①について） [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
7	造形表現と発達段階（2-4歳頃まで） ・ワークショップ通して考える [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
8	造形表現と発達段階（2-4歳頃まで） 造形表現と2-4歳頃までの発達段階 ・ワークショップを振り返る ・見立て遊びについて [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
9	造形表現と発達段階（2-4歳頃まで） ・制作1 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
10	造形表現と発達段階（2-4歳頃まで） ・制作2 （作品②の提出とレポート課題②について） [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
11	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） ・ワークショップ通して考える [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5〜1h)
12	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） 造形表現と0-2歳頃までの発達段階 ・ワークショップを振り返る [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5〜1h)
13	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） ・制作1 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
14	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） ・制作2 （作品③の提出とレポート課題③について） [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
15	造形表現と発達段階 造形表現と7-12歳頃までの発達段階 ふりかえり [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5〜1h)

時間外での学修	・日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 ・定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」（豊かな感性）を一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室（H201）にて金曜日昼休みです。

【1C3S230】幼児と造形表現Ⅱ	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	立崎　博則
資格・制限等	特になし
授業内容	造形表現の指導法について、様々な指導方法を造形ワークショップを実施し段階的に学んでいく。 また、授業後半は、指導案を作成し、グループでワークショップの実践をすることにより、実践的な技能を身につけることを目指す。

実務家教員			
授業方法	造形ワークショップを体験しその学びをまとめる。また、指導案を作成し、グループで発表する。		
到達目標	知識・理解	幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、造形ワークショップを通して、造形活動の指導法についての知識を身につける。	◎
	思考・判断・表現	造形ワークショップでの制作の中で、自分の感じたことや考えたことを自分なりに表現し表現する楽しさを感じるとともに、造形活動の中で子ども達一人一人のの表現をどう引き出すかについて思考することができる。	◎
	技能	自らの造形表現の体験から具体的な指導場面を想定して、子ど　も達の発達や目的に応じ　た活動ふまえた指導案を作成することにより、指導・援助方法を技能を身につける。	△
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし友達と共感し合うことにより、表現を楽しむことができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
作品	-	20	10	-	30
レポート	30	-	-	-	30
ポートフォリオ	10	20	-	10	40
合　計(点)	40	40	10	10	100

評価の特記事項	授業で説明します。
ＩＣＴ活用	Googleフォームやポートフォリオサイトを使い、作品などのフィードバクを行います。
課題に対するフィードバック	作品鑑賞をしコメントする時間を持ちます。授業内でレポートなどのふりかえりを行います。
テキスト	
参考書・教材	執拗な資料は授業で配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	造形表現の指導方法 様々な指導形態 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
2	造形表現の指導方法 ワークショップ通して考える 保育者主導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
3	造形表現の指導方法 ワークショップの振り返り 保育者主導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
4	造形表現の指導方法 ワークショップを通して考える 子ども自由型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
5	造形表現の指導方法 ワークショップの振り返り 子ども自由型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
6	造形表現の指導方法 ワークショップを通して考える 保育者誘導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
7	造形表現の指導方法 ワークショップの振り返り 保育者誘導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
8	造形表現の指導方法 まとめ 指導案作成とワークショップの実践について [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
9	素材研究1 ストップモーションアニメの制作 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
10	素材研究2 ストップモーションアニメの制作 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
11	素材研究3 ストップモーションアニメの制作 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
12	素材研究4 廃材をつかったグループ制作 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
13	素材研究5 廃材をつかったグループ制作 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
14	素材研究5 廃材をつかったグループ制作 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
15	素材研究 レポート課題 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)

時間外での学修	・日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 ・定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」（豊かな感性）を一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、造形表現について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室（H201）にて金曜日昼休みです。

【1C3S232】幼児の運動と遊びⅠ	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	垣添　忠厚
資格・制限等	幼免必修
授業内容	子どもの成長に合った運動や運動遊びを学修します。子どもたちが主体的・積極的に取り組めるように配慮し、子どもの基本運動能力が養われるように導くため、基礎技能の修得や援助方法を学び、現場で活かせるよう技術を身につけます。

実務家教員	垣添忠厚（特別支援学校18年、小学校5年）		
授業方法	グループ活動の中で協力し合いながら、各テーマに沿って実施します。		
到達目標	知識・理解	幼児の運動遊びを題材とした活動計画の立て方が理解できる。	○
	思考・判断・表現	幼児の基本運動能力が養われるように援助する技術・技能を高めることができる。	◎
	技能	保育者と幼児の両方を演じながら受講することができ、豊かな感性をもち実践に活かすことができる。	◎
	関心・意欲・態度	幼児の運動遊びを十分に体験し、活動の中で仲間と協力することができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 ／ 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
受講態度	15	-	-	15	30
レポート	-	15	-	-	15
自己評価	-	15	-	-	15
グループ発表	-	-	20	-	20
指導案	-	-	20	-	20
合　計(点)	15	30	40	15	100

評価の特記事項	受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。レポート、自己評価は出席カードに記入する内容を基に評価します。発表は、サーキット運動あそびの発表内容を評価します。課題提出は、ノートの内容を評価します。
ＩＣＴ活用	保育技術を高める演習において、オープンな教育リソースを活用します。
課題に対するフィードバック	提出されたレポートの良い視点や考察を学生に紹介します。
テキスト	
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼児体育、必要に応じて資料を配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス（授業内容の説明）/オープンな教育リソースとして教育テレビ番組NHK「おかあさんといっしょ」の視聴し幼児向け番組の工夫についてまとめる。 ［課題（復習）］授業内容を把握し、課題についてレポートにまとめる。（1h～2h）
2	幼児の体操とダンス１：オープンな教育リソースから子ども向けの体操又はダンスを選び模範演技ができるようにグループで練習する。 ［課題（復習）］幼児の体操とダンスについて理解し、幼児向けの手本の仕方を考える。（1h～2h）
3	幼児の体操とダンス２：グループでリズム体操またはリズムダンスを発表し、意見を交流する。 ［課題（復習）］リズム体操、リズムダンスの手本の方法をまとめる。（1h～2h）
4	幼児の遊びのモデル・プログラム１：幼児の遊びを体験し、活動計画に沿った展開の仕方を学ぶ。 ［課題（復習）］活動計画の立て方についてレポートにまとめる。（1h～2h）
5	幼児の遊びのモデル・プログラム２：幼児の遊びを体験し、活動計画に沿った展開の仕方を学ぶ。 ［課題（復習）］活動計画の立て方についてレポートにまとめる。（1h～2h）
6	幼児の遊び１（グループワーク）：発達年齢に応じた新聞、ボールをつかったあそびについて理解し、その応用についてグループで話し合う。 ［課題（復習）］新聞、ボールをつかった遊びの応用を、レポートにまとめる。（1h～2h）
7	幼児の遊び２（グループワーク）：発達年齢に応じたなわ、平均台をつかったあそびについて理解し、その応用についてグループで話し合う。 ［課題（復習）］なわ、平均台をつかった遊びの応用を、レポートにまとめる。（1h～2h）
8	幼児の遊び３（グループワーク）：発達年齢に応じた鉄棒、マットをつかったあそびについて理解し、その応用についてグループで話し合う。 ［課題（復習）］鉄棒、マットをつかった遊びの応用を、レポートにまとめる。（1h～2h）
9	運動あそびを創造（グループワーク）：グループに分かれ、道具を使った年齢にあった遊びを考える。 ［課題（復習）］これまでに行った運動遊びの中から工夫し、あそびの提案を考える。（1h～2h）
10	運動あそびの環境設定１（グループワーク）：グループで決めた遊びの展開を考えまとめる。 ［課題（復習）］安全への配慮点や援助方法について、レポートにまとめる。（1h～2h）
11	運動あそびの活動計画に立案（グループワーク）：グループで提案する遊びの環境を設定し、遊びの進め方について役割を決めリハーサルをする。 ［課題（復習）］遊びをうまく展開するための援助方法についてレポートにまとめる。（1h～2h）
12	運動遊びグループ発表１：各グループの遊びを保育者役と子ども側に分かれて演習し、改善点等を見つける。 ［課題（予習）］事前に環境設定において配慮すべきことを準備する。（1h～2h）
13	運動遊びの活動計画に見直し（グループワーク）：発表を受けての改善点について話し合い、改善点をまとめる。 ［課題（復習）］改善点から環境設定を見直す。（1h～2h）
14	運動遊びグループ発表２（模擬実習）：抽出したグループの遊びを再度紹介し、運動遊びの援助方法や改善点について考える。 ［課題（復習）］幼稚園での部分実習を想定した、遊びの展開をレポートにまとめる。（1h～2h）
15	指導案の作成：幼稚園での部分実習を想定した指導案を作成する。 ［課題（復習）］これまでの学びをノートにまとめ、現場実習等で活かす。（1h～2h）

時間外での学修	体調管理に気を配り、毎時間の準備物等の確認をしてください。発表に向けての準備を十分に行ってください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】

受講学生へのメッセージ	保育者ということを念頭に置き、自分らしさを素直に表現できるよう全ての授業を積極的に受講してください。運動のできる服装と体育館シューズを必ず着用すること。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館）で毎週金曜日の12：15～12：45です。

【1C3S233】幼児の運動と遊びII	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	垣添　忠厚
資格・制限等	幼免必修
授業内容	子どもたちが主体的・積極的に取り組めるように配慮し、子どもたちの基本運動能力が養われるように導くため、基礎技能の修得や援助方法を学び、現場で活かせる技術を身につけます。また、手具を用いたリズム運動や親子体操等の発表を行い、発表に到るまでの過程において工夫することや発想力を向上させることをねらいとします。

実務家教員	垣添忠厚（特別支援学校18年、小学校5年）		
授業方法	グループでの活動を中心に、発表に向けての準備や構想を思案し実施します。		
到達目標	知識・理解	幼児の基本運動能力が養われるように的確に援助することができる。	○
	思考・判断・表現	各種目において、保育者として感性豊かに運動あそびを工夫することができる。	◎
	技能	保育者と幼児の両方を演じながら受講することができ、豊かな感性をもち実践に活かすことができる。	◎
	関心・意欲・態度	幼児の運動遊びを十分に体験し、発表に向けて活動する中で仲間と協力することができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
受講態度	15	-	-	15	30
レポート	-	15	-	-	15
自己評価	-	15	-	-	15
発表	-	-	40	-	40
合　計(点)	15	30	40	15	100

評価の特記事項	受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。レポート、自己評価は出席カードに記入する内容を基に評価します。発表は、各種目の発表内容を評価します（3回）。
ＩＣＴ活用	リズムダンスの手本となる動画教材を活用します。
課題に対するフィードバック	発表を通して、互いにアドバイスができる環境を設定します。
テキスト	
参考書・教材	『親子でからだあそび』（著：佐藤弘道、世界文化社）、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼児体育、必要に応じて資料を配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション（授業内容の説明） ［課題（復習）］授業内容を把握し、計画を立てる。（1h～2h）
2	親子体操（目的の理解と実技） ［課題（復習）］授業で行った親子体操をノートにまとめる。（1h～2h）
3	ボール・リズム運動Ⅰ（基本の動き・創作） ［課題（復習）］ボール運動について理解し、創作内容をノートにまとめる。（1h～2h）
4	ボール・リズム運動Ⅱ（仕上げ・発表） ［課題（復習）］発表を振り返り、ノートにまとめる。（1h～2h）
5	リボン・リズム運動Ⅰ（基本の動き・創作） ［課題（復習）］なわの運動について理解し、創作内容をノートにまとめる。（1h～2h）
6	リボン・リズム運動Ⅱ（仕上げ・発表） ［課題（復習）］発表を振り返り、ノートにまとめる。（1h～2h）
7	バルーン・リズム運動Ⅰ（基本の動き・創作） ［課題（復習）］バルーンの運動について理解し、創作内容をノートにまとめる。（1h～2h）
8	バルーン・リズム運動Ⅱ（基本の動き・創作） ［課題（復習）］バルーンの運動について理解し、創作内容をノートにまとめる。（1h～2h）
9	バルーン・リズム運動Ⅲ（仕上げ・発表） ［課題（復習）］発表を振り返り、ノートにまとめる。（1h～2h）
10	創作リズム運動Ⅰ（リズム運動の目的の理解と創作） ［課題（復習）］授業内容を把握し、子どもまつりに向けた計画を立てる。（1h～2h）
11	創作リズム運動Ⅱ（選曲・創作・計画） ［課題（復習）］創作内容をノートにまとめる。（1h～2h）
12	創作リズム運動Ⅲ（振付） ［課題（復習）］創作内容を、ノートにまとめる。（1h～2h）
13	創作リズム運動Ⅳ（振付・構成・仕上げ） ［課題（復習）］創作内容や課題を、ノートにまとめる。（1h～2h）
14	発表に向けて（練習・プレゼンテーションの準備） ［課題（復習）］発表のに向けた課題を出し、主体的に練習する。（1h～2h）
15	発表会（子ども祭り） ［課題（復習）］発表を振り返り、成果と課題をノートにまとめる。（1h～2h）

時間外での学修	発表に向けた準備や練習を十分に行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総修学時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	保育者ということを念頭に置き、自分らしさを素直に表現できるよう全ての授業を積極的に受講してください。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館）で毎週金曜日の12：15～12：45です。

【1C4S201】教職演習	幼児教育学科		2年通年	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	大橋　淳子・名和　孝浩
資格・制限等	幼免必修
授業内容	実習に先立ち、教育実習の意義と役割を理解し、幼稚園教諭として必要な知識技能を高めるために、幼児教育の実践に向けて次の内容について考察する。(1)必要な教職教養について整理する。(2)教育実習の意義と目的、幼稚園の現状と課題について学ぶ。(3)幼稚園教育要領に基づいた指導の実際について学ぶ。

実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年		
授業方法	講義と演習、実技指導等を含めた授業展開で進めていく。保育者としての資質を高めるために、自分なりに考える場面を重視した指導形態をとる。		
到達目標	知識・理解	保育実習の意義と目的を理解し、幼稚園の現状と課題について学びを深めることができる。	○
	思考・判断・表現	豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者像を常に描き、研鑽に努めることができる。	○
	技能	幼稚園教育要領に基づいた指導の実際について学び、保育実践力を身に付けることができる。	◎
	関心・意欲・態度	教育実習に向けて保育技術の向上を図ると共に、必要な書類の作成ができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	20	20	-	-	40
実技試験	-	-	30	-	30
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	20	20	30	30	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとしてレポートにコメントを返します。ワークシートの回答の説明を行います。
テキスト	『文部科学省　幼稚園教育要領解説』フレーベル館(259円)ISBN:978-4577814475 『幼稚園・保育所・こども園実習パーフェクトガイド』わかば社(1,512円)ISBN:978-4907270193 1年次購入済み
参考書・教材	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領　　フレーベル館 保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z―実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト―

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション：幼稚園実習の意義、目的、内容の理解をする。 ［課題（予習）］１年次のテキストを熟読しておくこと。(1H)
2	幼稚園の一日の生活の流れと保育内容の理解：幼稚園と保育所・認定子ども園の違いを理解する。 ［課題（復習）］幼稚園・保育所の違いをレポートにまとめる。(2H)
3	幼稚園・保育所の違いを確認する。 幼児の年齢、季節に適した絵本を調べる。：絵本リスト（９月実習分）を作成する。 ［課題（復習）］絵本リストの作成（２月実習分）(2H)
4	幼児の年齢、季節に適した遊びを調べる。 ［課題（復習）］手遊び・季節の歌・遊び（部分実習）リストの作成(2H)
5	指導の実際（１）：幼児の心をつかむ自己紹介の仕方を学ぶ。 ［課題（復習）］自己紹介絵本を各自作成し、次回の発表練習をする。(2H)
6	指導の実際（２）：自己紹介絵本を使って幼児の心に寄り添う話し方のポイントをつかんで発表する。 ［課題（復習）］他の人の発表を見て、学んだことを記録しておく。 (1H)
7	指導の実際（３）：日常生活への援助の仕方を学ぶ（朝の出迎え、お帰りの仕方等） ［課題（復習）］他の人の発表を見て、学んだことを記録しておく。(2H)
8	幼児理解：幼児の発達の理解と内面理解について学ぶ ［課題（復習）］参考資料学んだことを、次回、話し合いができるように各自まとめておく。(2H)
9	指導案作成のポイントを理解し、身上書の書き方、実習園でのオリエンテーションの受け方等を身につける。 ［課題（復習）］身上書の下書きを作成する。 (1H)
10	身上書の清書をする。 「指導案」に基づいて部分実習をするということについて学ぶ。 ［課題（予習）］指導案に基づいて授業ができる準備をする。(2H)
11	季節や年齢に応じた指導案の作成について学ぶ。 ［課題（復習）］９月実習に向けて指導案を作成する(1H)
12	実習日誌の書き方と記録のポイント（１）：１日流れの記録、事例・エピソード・考察等の書き方を学ぶ ［課題（復習）］１日の流れの記録についてまとめる(1H)
13	実習日誌の書き方と記録のポイント（２）：部分実習後の記録、実習終了時の記録等の書き方を学ぶ ［課題（復習）］事例またはエピソードの書き方についてまとめる(2H)
14	実習の反省(1) 教育実習の反省をし、次の教育実習に向けて課題を明らかにする。 ［課題（復習）］事後反省シートに記入しておき、個別面談に臨むこと。(1H)
15	実習の反省(2) 教育実習の反省をし、次の実務研修に向けて課題を明らかにする。 ［課題（復習）］事後反省シートに記入しておき、個別面談に臨むこと。(1H)

時間外での学修	保育に関する学修で身につけた知識と技能を復習しておくこと。実習に向けて、絵本や手遊び・集団遊びなどの教材研究と幼児 理解について意欲的に努力しようとすること。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：20時間】
受講学生へのメッセージ	幼稚園教育実習ですぐに役立つように発表の場を多く設ける。積極的に取り組み、自分なりのやり方を身につけてほしい。質問等は大橋（H205）・名和（H211）のオフィスアワーを活用してください。

【1C4A402】幼稚園教育実習Ⅰ	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択	実習	90時間

教員	大橋　淳子・名和　孝浩
資格・制限等	幼免必修／GPA並びに既修得科目による制限有り
授業内容	これまでに学んだ知識や身につけた技術を保育現場で体験的に学び、保育実践力を身につけます。 2週間の実習期間中、主に(1)観察を中心とした実習、(2)補助的な参加、部分実習を中心とした実習に取り組みます。

実務家教員	大橋:幼稚園教諭、保育士・28年		
授業方法	実習園でのオリエンテーション及び実習園での教育実習を2週間行います。なお、履修において本学または実習園で決められた事項を遵守出来ない場合は、実習を中止することがあります。		
到達目標	知識・理解	幼稚園の生活に参加し一日の流れを把握すると共に、保育を部分的に担当しながら、保育技術を習得する。	◎
	思考・判断・表現	幼児と共に活動をしながら観察し、幼児一人ひとりへの理解を深める。	◎
	技能	幼稚園の教育課程や指導計画を理解し、幼稚園教育について学ぶ。	○
	関心・意欲・態度	幼稚園教諭としての役割を知り、積極的に実習に取り組む。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実習園の評価	20	20	20	20	80
実習日誌	10	10	-	-	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。提出物は実習園・担当教員に提出するものの両方を含みます。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして振り返りシート・実習日誌をもとに面談を行います。
テキスト	ありません
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領』フレーベル館

内容	
実施回	授業内容・目標
1～15	第１回　　実習園での オリエンテーション 第２回～第８回 幼稚園で教育実習　（１週目） （１）観察を中心とした実習 ・実習園の概要を知る ・園児と共に活動しながら観察し、幼児理解に努める。 ・幼稚園における保育の資料を収集し、記録をとる。 ・安全に対する配慮、環境整備、清掃の仕方を知る。 第９回～第１５回 幼稚園で教育実習　（２週目） （２）補助的な参加・部分実習を中心とした実習 ・指導教員の補助的役割で保育に参加し、一日の流れを理解する。 ・幼稚園の教育課程・指導計画を理解する。 ・保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。 ・さまざまな幼児とコミュニケーションをとり、一人ひとりの発達への理解を深める。 ・部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。 ・園行事に参加し、行事のあり方について考える。 ・まとめを行い、今後の課題を見つける。 ・保育者や保護者と積極的にコミュニケーションをとり、保護者支援の仕方を学ぶ。

時間外での学修	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の教員の指導を仰ぎましょう
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調に留意し、自己管理を怠らず、実習を意欲的に取り組みましょう。質問等は大橋（H205）・名和（H211）のオフィスアワーを活用してください。

【1C4A403】幼稚園教育実習Ⅱ	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	選択	実習	90時間

教員	大橋　淳子・名和　孝浩
資格・制限等	幼免必修／GPA並びに既修得科目による制限有り
授業内容	これまでに学んだ知識や身につけた技術を保育現場で体験的に学び、保育実践力を身につけます。 ２週間の実習期間中、主に(1)観察を中心とした実習、(2)補助的な参加、部分実習を中心とした実習に取り組みます。

実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年		
授業方法	実習園でのオリエンテーション及び実習園での教育実習を２週間行います。なお、履修において本学または実習園で決められた事項を遵守出来ない場合は、実習を中止することがあります。		
到達目標	知識・理解	幼稚園の全体計画に即して部分的な指導計画を作成し、その実践を通して課題を掴み、保育技術を習得する。	◎
	思考・判断・表現	幼児一人ひとりの発達を理解し、それに応じた援助の仕方を学ぶ。	○
	技能	幼稚園の教育課程や指導計画を理解し、幼稚園教育についての学びを深める。	◎
	関心・意欲・態度	幼稚園教諭としての役割を知り、保育者や保護者、地域の方と積極的に関わり、実習に取り組む。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実習園の評価	20	20	20	20	80
実習日誌	10	-	10	-	20
合　計(点)	30	20	30	20	100

評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。提出物は実習園・担当教員に提出するものの両方を含みます。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして振り返りシート・実習日誌をもとに面談を行います。
テキスト	なし
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領』フレーベル館

内容	
実施回	授業内容・目標
1～15	第１回　　実習園での オリエンテーション 第２回～第８回　幼稚園で教育実習　（１週目） （１）参加を中心とした実習 ・実習園のようすを全体的に理解する。 ・幼児への理解を深め、一人ひとりに応じた援助の方法を見つける。 ・実習園の指導計画を理解し、焦点化した記録をとるようにする。 ・保護者や地域社会との連携のあり方について理解する。 ・自分の課題とテーマについて理解し、その克服と解明に努める。 第９回～第１５回　幼稚園で教育実習　（２週目） （２）部分・責任実習を中心とした実習 ・指導教員の保育内容や、環境構成と援助のあり方を身につけるように努める。 ・幼稚園の全体計画に即して一日の指導計画、もしくは部分的な指導計画を作成し、　その実践を通して課題を掴む。 ・一人ひとりの幼児の発達について理解し、個に応じた指導や援助の方法を学びとし、実践する。 ・幼稚園教諭に求められる資質・能力を理解し、そこから今後の課題を掴む。 ・保育者や保護者、地域の方と積極的にコミュニケーションをとり、子育て支援者としての資質を身につける。

時間外での学修	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の教員の指導を仰ぎましょう
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調に留意し、自己管理を怠りなく、意欲的に取り組みましょう。 質問等は大橋（H205)・名和（H211）のオフィスアワーを活用してください。

【1C4A408】保育実習Ⅱ	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択	実習	90時間

教員	名和　孝浩・大橋　淳子・立崎　博則
資格・制限等	保資選択必修／GPA並びに既修得科目による制限有り
授業内容	保育所保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。

実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年
授業方法	保育実習園でのオリエンテーション及び実習園での保育実習を２週間行います。なお、保育実習を履修する際、本学または、実習園で決められた事項を遵守できない場合は、実習を中止することがあります。

到達目標		
知識・理解	保育の理解を深め、保護者や地域社会との連携のありかたについて学ぶ。	○
思考・判断・表現	乳幼児一人ひとりの発達を理解し、個に応じた援助の仕方を学ぶ。	○
技能	全体計画に即して一日もしくは部分的な指導計画を作成、実践し、保育技術を学ぶ。	○
関心・意欲・態度	保育の理解を深め、乳幼児一人ひとりの理解を深めると共に集団としても捉えることができる。	○
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点／評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実習日誌	-	25	-	-	25
実習園の評価	25	-	25	25	75
合　計(点)	25	25	25	25	100

評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	実習園からの評価に基づいた実習課題のフィードバックを行う。
テキスト	『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z―実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト―』【監修】名須川 知子【編著】田中 卓也・松村　齋・小島 千恵子・岡野 聡子・中澤 幸子　萌文書林(1,980円)ISBN:978-4-89347-360-8 ありません。
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領』

内容	
実施回	授業内容・目標
1～15	第１回　　実習園での オリエンテーション 第２回－第８回 保育所での保育実習　（１週目） （１）参加を中心とした実習 ・実習園の様子を全体的に理解する。 ・乳幼児への理解を深め、一人ひとりに応じた援助の方法を見つける。 ・実習園の指導計画を理解し、焦点化した記録をとるようにする。 ・保護者や地域社会との連携のあり方について理解する。 ・自分の課題とテーマについて理解し、その解明と克服に努める。 第９回－第１５回 保育所で保育実習　（２週目） （２）部分・責任実習を中心とした実習 ・指導職員の保育内容や　環境構成と援助のあり方を身につけるように努める。 ・全体計画に即して一日もしくは部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し課題をつかむ。 ・一人ひとりの乳幼児の発達について理解し、個に応じた指導や援助の方法を学び、実践する。 ・保育士に求められる資質能力を理解し、そこから今後の課題をつかむ。 ・部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。

時間外での学修	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の職員の指導を仰ぎましょう。
受講学生へのメッセージ	実習は体力がいります。日頃から健康に留意し、自己管理を怠りなく、十分体調を整えて意欲的に実習に取り組みましょう。質問等は各教員のオフィスアワーを活用してください。

【1C4S210】実習指導Ⅱ	幼児教育学科		2年通年	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	名和　孝浩・大橋　淳子・立崎　博則
資格・制限等	保資選択必修
授業内容	保育士資格取得を目指す学生として、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習に必要な基本的知識や態度を学び、課題を持って実習に取り組めるよう学びます。実習日誌、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習が充実するよう実習に関連する科目での学びも取り入れて知識や技能を修得します。

実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年		
授業方法	講義と演習		
到達目標	知識・理解	保育所の一日の流れを理解すると共に、実習施設や保育内容について学ぶ。	○
	思考・判断・表現	子どもと共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努め、その記録を日誌にまとめる。	○
	技能	保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。	◎
	関心・意欲・態度	積極的に保育に参加し、保育士の役割について学ぶ。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	10	20	-	-	30
小テスト	10	-	-	-	10
実技試験	-	-	30	-	30
提出物・受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	20	20	30	30	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	実習に関する面談や事務手続き・実習記録に関する添削や個別指導を適宜行う。 実習事後指導により実習での学修内容をフィードバックする。
テキスト	『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z―実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト―』【監修】名須川 知子【編著】田中 卓也・松村　齋・小島 千恵子・岡野 聡子・中澤 幸子　萌文書林(1,980円)ISBN:978-4-89347-360-8
参考書・教材	厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション　・実習とは何か　・保育実習までの準備と学び [課題(予習)]保育実習園について調べる。(1h)
2	実習園を決める　・保育実習の意義について学ぶ　・保育ボランティアに向けての準備 [課題(予習)]保育実習園を決め、連絡をとり、内諾を受ける。(1～2h)
3	保育ボランティアに行こう　・保育ボランティアの心得について学ぶ ・保育ボランティアでの視点について学ぶ　・個人情報の保護に関して学ぶ [課題(復習)]保育ボランティアの依頼と事前オリエンテーションに出向く。(2～3h)
4	保育実習に向けて自身のめあてを決めよう ・保育ボランティアを振り返り、自身の課題に気づき、目標を立て見通しを持つ ・保育所の機能と目的についてまとめる [課題(復習)]保育ボランティアの振り返りをまとめる。(1～2h)
5	保育所保育指針から学ぶ（１）・認定子ども園との相違について知る ・「総則」「子どもの発達」「保育の内容」について学ぶ [課題(予習)]保育所保育指針「総則」「子どもの発達」「保育の内容」を事前の読んでおく。(1～2h)
6	保育所保育指針から学ぶ（２） ・「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」について学ぶ [課題(予習)]保育所保育指針「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」を事前に読んでおく。(1～2h)
7	小テスト・保育の実際（１）　部分実習の考え方について学ぶ　・指導案の立て方を学ぶ 指導案を立てて、模擬授業をする [課題(復習)]部分実習の指導案を考えておく。(1～2h)
8	保育の実際（２）　・自己紹介について考え、必要な準備をする [課題(復習)]必要な準備物を完成させる。(1～2h)
9	実習日誌の書き方について学ぶ　・実習日誌の書き方を学ぶ。デイリープログラムを、日誌に書く [課題(復習)]デイリープログラムを完成させる。(1h)
10	実技の確かめ　・保育園をイメージして手遊びをする　・実習日誌の正しい書き方について確認をする [課題(復習)]手遊びの内容を考え、練習をしておく。(1～2h)
11	実習生としての心構え（１）　・園でのオリエンテーションを受ける時の視点を知る ・実習生としての実習態度、服装･身だしなみの確認をする。 [課題(予習)]事前オリエンテーションを受けるために必要な準備をする。(1～2h)
12	実習生としての心構え（２）　・実習のめあての確認　・事務文書（身上書）の作成 [課題(復習)]身上書を完成させる。(1～2h)
13	実習生としての心構え（３）　・事務文書（訪問担当者への地図）の作成や取り扱いについて確認をする ・個人情報の保護について確認をする [課題(予習)]実習日誌や必要な書類の整理をしておく。(1～2h)
14	まとめ　・実習の目的と内容の確認　・評価について　・事務連絡 [課題(復習)]実習初日の持ち物の確認や自己紹介の練習をしておく。(2H)
15	実習を終えて反省　・実習を振り返り、めあての達成など自己評価をする ・実習園からのアドバイスなどを元に、今後の実習に向けて課題を明確に持つ [課題(復習)]実習振り返り票の記入をする。(1h)

時間外での学修	実習に向けて、他の科目での学修も生かしながら準備を進めていきましょう。時間外の学修については、その都度指示をしますから、確実に課題を進めていきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調管理に努めると共に、心身の健康について日頃から意識しましょう。質問等は各教員のオフィスアワーを活用してください。

【1C4F212】ボランティア実践	幼児教育学科		1～3年通年	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	松村　齋
資格・制限等	特になし
授業内容	短大及び地域で行われる社会活動（こども祭、みずき祭、アクアウォークなど）や、本学の環境整備活動、保育関係の学会・研修会、シンポジウムなどに参加活動し、振り返りをおこなう。情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う。主体的・対話的で深い学びを促進する状業での学修活を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援なども必要に応じて実施する。

実務家教員	学校教員２０年		
授業方法	活動参加及び振り返りの実施		
到達目標	知識・理解	社会の課題に気付き、適切に判断・行動することができる。	○
	思考・判断・表現	学びの集積を自覚し、統合し活用することができる。	○
	技能	さまざまな価値観に対応できる柔軟性を身につける。	○
	関心・意欲・態度	社会に貢献する自明観と責任感をもって、積極的に行動することができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達指標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
提出物(ポートフォリオ)	20	20	20	40	100
合　計(点)	20	20	20	40	100

評価の特記事項	ポートフォリオの提出(100%)で評価する。 3年間で、(1)行事参加、(2)環境整備活動、(3)学会・研修会・シンポジウムへの参加等をおこない、 ポートフォリオを提出する。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でのフィードバックを行なう。
テキスト	なし
参考書・教材	特に指定はしませんが、学会などの催し、研究会などは案内します。 日頃から、教育・政治・経済など社会情勢などを知るための印刷物（新聞、関連誌）を身近な教材にしてください。

内容	
実施回	授業内容・目標
15	方法：課題レポートの提出(100%)で評価する。 それぞれの活動を (1)行事参加 (2)環境整備活動 (3)学会・研修会、シンポジウムなどへの参加 の3分野に分類し、討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す。 3年間で (1)行事参加は30h以上（時間外活動） (2)環境整備活動は30回以上 (3)学会・研修会・シンポジウムなどへの参加は3回以上 を総合的にまとめた課題レポート(1つの行事につき所要時間1h程度)を提出する。

時間外での学修	社会活動演習の種類によって、事前準備・学修が必要になってきます。 詳細については担当教員より連絡があります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	社会活動に積極的に参加することによって、大学で学ぶ知識や技術を統合し、主体的・協同的な姿を備えた保育者になることを目的としています。 オフィスアワーは各教員の時間帯を参照。そのほか、必要な時にアカデミックアドバイザーに相談してください。

【1C5S208】子ども基礎研究Ⅰ	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	今村　民子・大橋　淳子
資格・制限等	特になし
授業内容	保育者には子育ち、子育て支援の中心的な役割を担って行くことが期待されています。この授業では　学内にある子育てサロンに参加してこれまで学んできた知識や技能を基に自分のテーマをみつけ、さらに深く知りたいことや身につけたいことを観察したり体験的に学びながら保育者としての実践力を高めます

実務家教員	
授業方法	グループに分かれて受講します。第1週は「子育てママ大学」の運営に関わります。第２，４週は子育てサロンに参加します。子育てサロンに参加しない週は事前の準備と、事後の記録や反省で振り返ることをします。

到達目標		
知識・理解	様々な場面を考慮した環境構成をすることができる	◎
思考・判断・表現	幼児教育・保育の課題に気づき、それを分析し判断することができる	◎
技能	子どもや子育て支援の方法や配慮について理解し、子どもの年齢や発達に応じた支援ができる	○
関心・意欲・態度	お互いに協力しながら、誰とでも積極的に幅広く関わることができる	○
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
取り組みの計画	-	-	20	-	20
参加活動の記録	30	-	-	-	30
参加活動についての考察	-	30	-	-	30
受講態度・参加の姿勢	-	-	-	20	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	「参加の記録」用紙に　活動内容の計画　各自のねらい　活動の流れと学生の動き　活動の反省と考察　感想　を記入して活動後に提出します。活動参加への姿勢は、明朗さ、積極性、協調性、などの姿を評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	記録用紙にコメントをします。
テキスト	なし
参考書・教材	必要に応じて配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
	第　１週　授業の概要（授業の進め方、評価の仕方、グループ分け） 第　2週　　子育てサロンの運営の実際について。今までのサロン実施の様子を知り、計画に活かす。 ［課題］子育てサロンで活かす保育技術の振り返り。（1h） 第　3週　　子育てサロンに活かす保育技術考える。グループごとに担当の内容の詳細を検討して練習する。 ［課題］子育てサロンで活かす保育技術を練習する。（1h） 第　4週～第15週 ５・６・７月 第1週　子育てママ大学　の運営に参加 子育てママ大学の会場準備、受付体験、会場での見守り、終了後の清掃片付け ［課題］記録用紙の記入。体験したことを振り返り反省と考察をする。 （各1～2ｈ） 第２、４週 子育てサロンでの親子遊び体験 参加する親子と関わることを通して、子どもの発達段階、親子への支援の方法を学ぶ ［課題］記録用紙のまとめ、コーナー遊び、終わりの会での出し物の準備 （各1～2ｈ） 子育てサロンに参加しない週 事前準備　：目的と計画、準備 事後反省　：各自とグループでの実施内容の報告　次回への反省課題 記録用紙記入

時間外での学修	授業の準備や練習は事前にしっかり済ませておくこと。 質問や疑問点については担当者の研究室に聞きに来てください。
受講学生へのメッセージ	保護者や施設スタッフに対するマナーや挨拶、服装など社会人としての基本的な心得についても注意して臨むこと。 グループごとに役割を分担して準備、企画を担当するなど、お互いに協力し合うようにすること。 オフィスアワーは毎週水曜日昼休み、場所は授業内で説明します。

【1C5S209】子ども基礎研究Ⅱ	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	今村　民子・大橋　淳子
資格・制限等	特になし
授業内容	保育者は子育ち、子育て支援の中心的な役割を担って行くことが期待されています。この授業ではこれまで学んできた、知識や技能を基にさらに深く知りたいこと、身につけたいことを自分のテーマとして選び、大学の行事や子育て支援の現場に参加しながら、テーマについて研究し、保育者に必要となる知識や技能を体験的に学びます。
実務家教員	
授業方法	授業はグループ活動で行う。行事に参加する準備と体験をして、記録や反省で振り返ることを繰り返しながら進めます。また子ども研究に繋がる各自の研究テーマを見つけてレポート作成をします。

到達目標		
知識・理解	様々な場面を考慮した環境構成をすることができる	○
思考・判断・表現	幼児教育・保育の課題に気づき、それを分析し判断することができる	◎
技能	子どもや子育て支援の方法や配慮について理解し、子どもの年齢や発達に応じた支援ができる	△
関心・意欲・態度	お互いに協力しながら、誰とでも積極的に幅広く関わることができる	○
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
取り組みの計画や参加の記録	20	-	-	-	20
レポート	-	50	-	-	50
受講態度・参加の姿勢	-	-	10	20	30
合　計(点)	20	50	10	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	提出したレポートには、各自にコメントをします。
テキスト	なし
参考書・教材	「保育所保育指針」フレーベル館 「幼稚園教育要領」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館　その他必要な資料はその都度配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
	第1週　授業の概要（授業の進め方、評価の仕方） [課題（復習）]前期子育てサロンでの参加記録の見直し（1h） 第2週・第3週 復習で見直した参加記録を基にして個人の研究テーマに沿った大学祭での取り組みの計画と準備 大学祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備 [課題（復習）]研究テーマの資料収集（各1h） 第4週　個人の研究テーマに沿った大学祭での取り組みの反省 大学祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みについての反省 [課題（復習）]研究テーマの資料収集（1h） 第5週～第12週 復習で収集した資料を基に個人研究テーマに沿って研究を進める こども祭におけるグループ毎のテーマを設定し取り組みと準備をする [課題（復習）]研究テーマの資料収集、レポート作成（各1h） 第13週 個人研究レポート完成 こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みと準備 [課題（復習）]研究テーマに沿った内容でこども祭への取り組み方を考えてくる（1h） 第14週 こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備 [課題（復習）]子ども研究でのテーマを考える（1h） 第15週 こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備、まとめ [課題（復習）]子ども研究でのテーマを考える（1h）

時間外での学修	授業の準備は事前にしっかり済ませておくこと。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	保護者に対するマナーや挨拶、服装など社会人としての基本的な心得についても注意して臨むこと。 グループごとに役割を分担して準備、企画を担当するなど、お互いに協力し合うようにすること。 オフィスアワーは毎週水曜日昼休み、場所は授業内で説明します。

【1C6F201】ウインドアンサンブル	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択必修	演習	60時間

教員	鈴木　孝育・服部　篤典・野々垣　行恵・長尾　洪基
資格・制限等	特になし
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ＆ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、前後期２回ずつの小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。
実務家教員	
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。

到達目標		
知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△
思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につけることができる。	○
技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。	◎
関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し、円滑に練習を進めることができる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動についての指導や支援ができる保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	10	50	-	60
受講態度	-	-	-	10	10
小テスト・提出物	10	10	-	10	30
合　計(点)	10	20	50	20	100

評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。
テキスト	その都度配布
参考書・教材	楽譜等その都度配布

内容

実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布、全体で譜読み、合奏。 [課題（準備・予習）]シラバスの熟読、音楽鑑賞用楽曲の譜読み、各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
2	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
3	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
4	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
5	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
6	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ 定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 課題に置き換えて実施。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲（学外演奏用）のまとめ。定期演奏会用楽曲の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。リズム・テンポを中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）

内容	
実施回	授業内容・目標
8	初見演奏力養合奏成及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。 リズム・テンポを中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
11	定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。リズム・テンポを中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
12	定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
13	定期演奏会用楽曲配布・全体で仕上げ、合奏。リズム・テンポを中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
14	定期演奏会用楽曲配布・全体で仕上げ、合奏。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
15	前期実技試験、筆記試験を実施。学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）

時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：３０～６０時間］
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【1C6F201】ウインドアンサンブル	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	選択必修	演習	60時間

教員	鈴木　孝育・服部　篤典・長尾　洪基・野々垣　行恵
資格・制限等	特になし
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ＆ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、後期２回の小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。

実務家教員			
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。		
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につけることができる。	○
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。	◎
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動についての指導や支援ができる保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	10	50	-	60
受講態度	-	-	-	10	10
小テスト・提出物	10	10	-	10	30
合　計(点)	10	20	50	20	100

評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。
テキスト	その都度配布
参考書・教材	楽譜等その都度配布

内容

実施回	授業内容・目標
1	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習 （特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
2	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
3	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習 （特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
4	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
5	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲仕上げ [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のまとめ、苦手箇所の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
6	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にテンポの変化にも対応できるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習 （特に他のパートとの調和を考えながら）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）

内容	
実施回	授業内容・目標
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にテンポの変化にも対応できるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習 （特に他のパートとの調和を考えながら）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲仕上げ [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のまとめ、苦手箇所の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
11	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲（全曲）について、特にハーモニーや音程の正確性を高めながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
12	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲（全曲）について、特に表現記号、ダイナミクスの変化に注意しながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
13	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲（全曲）について、特に旋律部分、伴奏部分の音楽の違いに注意しながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。学修記録ノートの記入。 （2h～4h）
14	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲（全曲）について、特に時代背景や表現記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
15	後期実技試験及び筆記試験を実施。 [課題（復習）]試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）

時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：３０～６０時間］
受講学生へのメッセージ	音楽の多角的なとらえ方を学ぶために、「一つだけの答えではない」柔軟な発想を持つようにしましょう。授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組んでください。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【1C6B102】音楽理論	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択必修	講義	30時間

教員	光井　恵子
資格・制限等	特になし
授業内容	保育者や音楽療法士になるために必要な音楽知識を基礎から応用まで学び、幅広い音楽性を身に付けていきます。また現場で活かせるよう、鍵盤楽器を活用して和声法やアレンジ法の基礎を修得していきます。

実務家教員	
授業方法	講義形式ですが、演習的な内容も取り入れていきます。作曲やアレンジした曲を発表することもあります。

到達目標		
知識・理解	保育者や音楽療法士に必要な音楽知識を理解し、説明することができる。	◎
思考・判断・表現	教育や保育に必要な音楽知識を身に付け、様々な音楽活動で活用し表現することができる。	◎
技能	修得した音楽知識を用いて、応用、発展させていくことができる。	△
関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描き、教育や保育における様々な課題に対して、積極的に取り組むことができる。	◎
備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート・課題	20	20	-	-	40
小テスト	10	10	-	-	20
発表	-	-	10	-	10
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	30	30	10	30	100

評価の特記事項	受講態度は、予習・復習等含めた授業への取り組み状況を総合的に判断します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	プリント課題や小テスト等の添削と解答の説明を個別的にまたは授業で行います。
テキスト	『改訂　音楽通論（音楽Ⅰ・Ⅱで使用した教科書）』教育芸術社(1,028円)ISBN:978-4877884125
参考書・教材	五線譜、必要に応じて資料は配付します

内容

実施回	授業内容・目標
1	音楽の仕組み(1)譜表・音名・音符・休符・小節について [課題(復習)]学修した内容を楽譜上で確認（2h）
2	音楽の仕組み(2)音程について(単音程) [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
3	音楽の仕組み(3)音程について(複音程と派生音を含む音程) [課題(復習)]学修した内容の確認プリント（2h）
4	音楽の仕組み(4)長音階・短音音階について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
5	音楽の仕組み(5)調号と近親調について、小テスト [課題(復習)]学修した内容の確認プリント（2h）
6	音楽の仕組み(6)和音について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
7	音楽の仕組み(7)コードネームについて [課題(復習)]学修した内容の確認プリント（2h）
8	音楽の仕組み(8)コードの進行法について、小テスト [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
9	和声法の基礎　和音の様々な関係、終止形について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
10	アレンジ法の基礎　リズム・メロディー・ハーモニーの簡単なアレンジ法について [課題(復習)]学修した内容の確認プリント（2h）
11	曲のアレンジ　発表と意見交換 [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
12	オリジナル曲の作成(歌詞）① [課題(復習・準備)]オリジナル曲の作成（2～3h）
13	オリジナル曲の作成(メロディー）中間発表と意見交換 [課題(復習・準備)]オリジナル曲の作成（2～3h）
14	オリジナル曲の完成 [課題(復習・準備)]オリジナル曲の作成・仕上げ（2～3h）
15	発表と意見交換、まとめ

時間外での学修	保育者や音楽療法士として子どもたちを指導するために必要な音楽力を身に付けていきます。毎回の内容を積極的に復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:30時間】
受講学生へのメッセージ	音楽の基礎知識をしっかり学び、たくさんの音楽に触れる機会を持ちましょう。様々な活用ができるようにしていきましょう。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。

【1C6S103】音楽心理学	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択必修	講義	30時間

教員	菅田　文子
資格・制限等	特になし
授業内容	音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法資格の取得にはこの授業が必修となっています。

実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年		
授業方法	演習を含む講義形式		
到達目標	知識・理解	音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけている。	◎
	思考・判断・表現	音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。	○
	技能	音楽心理学で用いられる質問紙の点数計算ができる。	△
	関心・意欲・態度	積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができる。	◎

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	40	20	-	-	60
課題提出	-	-	10	10	20
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	40	20	10	30	100

評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	授業の感想、課題をGoogleフォームを利用して行います。
課題に対するフィードバック	授業内に取り入れる形でよいレポートを紹介する。
テキスト	
参考書・教材	プリントを授業内で配布します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	音楽心理学とは 実験１：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、メンタルテンポについてまとめる（4H）
2	メンタルテンポと好みのテンポの関連について 実験２：ゲシュタルト原理と音の群化について [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、ゲシュタルトについて理解する（4H）
3	リズム知覚能力の発達 実験３：調の色彩的表象 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、色彩と音との印象の関係についてまとめる（4H）
4	共感覚について 実験４：楽器の音色による色彩的表象（12色以上の色鉛筆を持参してください）集団活動、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音色と色の関係についてまとめる（4H）
5	絶対音感と相対音感について 実験５：絶対音感テスト 音楽心理学の研究手法について（1）観察法（2）実験法（3）質問紙法　それぞれの特長と適した研究法について[課題（復習）]学んだ内容を復習し、心理学研究の手法について理解する。自分の持つ音感の特性について理解する（4H）
6	音による感情伝達 実験６：打楽器による感情表現　集団活動、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、リズムの違いによる感情表現について理解する（4H）
7	BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [課題（復習）]身近な環境にあるBGMについて調べレポートにまとめる（4H）
8	音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [準備・課題]知っているCMソングについて調べレポートにまとめる（4H）
9	音楽心理学で用いる心理尺度について AVSM、STAI　集団活動 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、心理尺度の計算について理解する（4H）
10	音楽聴取に関する研究１：感情の神経・生理学的測定について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽に対する生理的反応について理解する（4H）
11	音楽聴取に関する研究２：刺激間要因を問題として [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する（4H）
12	音楽聴取に関する研究３：聴取者間要因を問題として [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴取者の性格特性による感情反応の違いについて理解する（4H）
13	演奏不安に関する研究について　討論、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、演奏反応の克服のための方法についてまとめる（4H）
14	最近のトピックス 脳研究と音楽認知 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、理解を深める（4H）
15	テスト前の振り返り [課題（復習）]学んだ内容を復習し、テストの準備をする（4H）

時間外での学修	プリントをみて学んだことを復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】

受講学生へのメッセージ	実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参加してください。 心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【1C6B104】音楽療法・基礎	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	選択必修	講義	30時間

教員	菅田　文子
資格・制限等	特になし
授業内容	この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶことと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨床的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います。

実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年		
授業方法	講義形式ですが授業の一部分で演習活動も含みます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。		
到達目標	知識・理解	音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。	◎
	思考・判断・表現	ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。 対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。	◎
	技能	音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。	△
	関心・意欲・態度	意欲的に発表する。他グループの発表について自分の意見を述べることができる。	△

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	40	30	-	-	70
発表	-	10	10	-	20
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	40	10	10	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 課題の提出及び発表がない学生は期末試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	課題や感想をGoogle Formで提出します。
課題に対するフィードバック	よいレポートがあれば授業で取り上げます。
テキスト	『標準 音楽療法入門〈下〉実践編』日野原 重明 (監修)、篠田 知璋 (編集)、加藤 美知子 (編集) 春秋社(3,520円)ISBN:4393934482
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習①、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し音楽療法の手順について理解する（4H）
2	アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習②、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、ランニングアセスメントの役割について理解する（4H）
3	行動観察について：アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習③ [課題（復習）]学んだ内容を復習し、アセスメントの種類について理解する（4H）
4	音楽活動の記録について：客観的な記述方法について。反応のあった音楽、視線、セラピストとのかかわりなどについて主観を交えずに描写することができる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、客観的な記述について理解する（4H）
5	音楽活動やセラピストの働きかけが対象者にどのように受け止められたか、対象者の感情を推し量って記述し、次回からのセッションの活動で何を用い、どこを変えなければならないか自分の考えを記述できる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、主観的な記述と客観的記述を分けて記述する（4H）
6	目標設定について：対象者の分野別に異なる目標があることを知る。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、分野別の目標と活動内容についてレポートを作成する（4H）
7	長期目標と短期目標について：それぞれの目標の違いを知り、短期目標の立て方を学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、長期目標に対応した短期目標を含む音楽活動を考える（4H）
8	目標に応じた音楽活動の計画１：「動きを促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽活動の発表に向けて練習する（4H）
9	目標に応じた音楽活動の計画２：「社会性を促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、社会性と音楽活動の関連について理解する（4H）
10	目標に応じた音楽活動の計画３：「コミュニケーションを促す音楽活動」音楽活動を計画する。活動を発表する。[課題（復習）]学んだ内容を復習し、コミュニケーション能力と音楽活動の関連について理解する（4H）
11	事例から目標と活動を設定する演習１：児童 児童の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、児童の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）
12	事例から目標と活動を設定する演習２：成人 成人の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、成人の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）
13	事例から目標と活動を設定する演習３：高齢者 高齢者の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、高齢者の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）
14	この授業のレポート課題内容を説明する。 [課題（復習）]レポート課題に取り組む（4H）
15	レポート課題の作成　　レポート課題を作成、完成させる。 [課題（復習）]学んだ内容の復習（4H）

時間外での学修	教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。 課題の提出状況が評価に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【1C6S208】器楽	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	光井　恵子
資格・制限等	特になし
授業内容	鍵盤楽器を中心に、レベルに合わせた個人レッスンを行います。また、ピアノでのデュオ曲にも挑戦しながら保育者に必要な音楽的基礎技術や技能を修得し、音楽に対する感性を磨きながらハーモニーの美しさを体験し、表現力を高めていくことができるよう実践的に学びます。

実務家教員			
授業方法	レベルに合わせたピアノの個人レッスンが中心です。		
到達目標	知識・理解	様々な音楽のジャンルについて理解し、説明することができる。	○
	思考・判断・表現	柔軟な表現力で保育実践に取り組むことができる。	◎
	技能	現場に即した演奏技術を高めるよう努める。	○
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
発表	15	20	20	-	55
受講態度	-	15	-	30	45
合　計(点)	15	35	20	30	100

評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を提示していきます。
テキスト	『バイエル教則本』 『ブルグミュラー25の練習曲』 『ソナチネアルバム』他各自の楽譜
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	第1～2週 　１年に修得した知識の復習 　子どもの歌の弾き歌い①（コードを使用した弾き歌い） ［課題(予習・復習)］次回のレッスン曲の予習 （各1～2h） 第3週 　子どもの歌の弾き歌い②（コードを使用した弾き歌い） ［課題(予習・復習)］授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習 （1～2h） 第4週～第12 　ピアノ連弾 　各自のレベルに合わせたピアノ個人レッス（課題の確認） 　　（正確な譜読み・・・音　リズム　適切な指使い） 　　（様々な表現法・・・強弱　テンポ　ペダリング　フレージング） 　　（保育現場での活用法） ［課題(予習・復習)］授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習 （各1～2ｈ） 第13週 　ピアノ連弾の発表 ［課題(予習・復習)］ピアノ連弾発表の振り返り、ピアノ個人発表の練習 （1～2h） 第14週 　ピアノ個人の発表 ［課題(予習・復習)］発表の振り返り、次回のレッスン曲の予習 （1～2h） 第15週 　　各自のレベルに合わせたピアノ個人レッス 　　授業の振り返りとまとめ ［課題(予習・復習)］授業でのアドバイスをもとに復習 （1～2h）

時間外での学修	保育現場で役立つ実力を身に付けるために毎日練習し、積極的に予習・復習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻・欠席しないように心がけましょう。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。

【1C6A209】器楽と表現活動	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	光井　恵子
資格・制限等	特になし
授業内容	保育の現場では、子どもたちの日常生活や遊び、また行事の中で様々な音楽が活用されています。保育者はその幅広い音楽のジャンルに対応して、継続的な音楽全般のレベルアップが必要となります。器楽に引き続き、就職試験や保育実務研修、ボランティア活動等で活用できるよう、弾き歌いや様々な楽器を取り入れながら個人レッスンとグループ演習を行い、演奏に対する応用力や様々な指導法を身につけていきます。

実務家教員			
授業方法	各自のレベルや要望に合わせたピアノ個人レッスンとグループでの演習活動を行います。		
到達目標	知識・理解	子どもの発達過程を理解し、音楽的専門知識を修得する。	○
	思考・判断・表現	柔軟な表現力で保育実践に取り組むことができる。	◎
	技能	現場での活用を想定しながら総合的な音楽力を身につける。	○
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
発表	15	20	20	-	55
受講態度	-	15	-	30	45
合　計(点)	15	35	20	30	100

評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を示していきます。
テキスト	『1～2年次で学んできた楽譜、各自持参の楽譜等
参考書・教材	小林美実 監修、井戸秀和 編『こどものうた１００』チャイルド本社 必要な資料は授業で配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	第1週 　授業の説明 　個人レッスン　（季節の歌を中心に・・・春） ［課題(復習)］コードと曲の復習 (1～2h) 第2週～第3週 　個人レッスン　（季節の歌を中心に・・・夏） 　グループ演習　（様々な楽器を使った童謡等のアレンジ：曲決めとパート決め） ［課題(復習)］コードと曲の復習 (各1～2h) 第4週～第6週 　個人レッスン　（季節の歌を中心に・・・秋・冬） 　グループ演習　（様々な楽器を使った童謡等のアレンジ：曲のアレンジ） [課題(復習)］コードと曲の復習 (各1～2h) 第7週～第10週 　個人レッスン　（生活の歌を中心に） 　グループ演習　（様々な楽器を使った童謡等のアレンジ：個人練習とパート練習） ［課題(予習・復習)］コードと曲の復習、発表の曲選び (各1～2h) 第11週～第13週 　個人レッスン　（発表に向けての選曲　練習　） 　グループ演習　（様々な楽器を使った童謡のアレンジ：パート練習と合奏） ［課題(予習・復習)］グループ発表の練習、発表曲の弾き込み、発表曲についての内容を調べる。 (各1～2h) 第14週 　グループ発表・意見交流会、個人発表曲の仕上げ ［課題(予習・復習)］発表曲の弾き込み (1～2h) 第15週 　個人発表とまとめ

時間外での学修	保育現場で役立つ実力を身に付けるために毎日練習し、積極的に予習・復習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻・欠席しないように心がけましょう。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。

【1C6A211】保育教材研究	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	光井　恵子
資格・制限等	特になし
授業内容	保育所や幼稚園等の現場における保育教材の一つであるエプロンシアター（視覚教材）を制作し、実習・研修で活用できるよう、操作方法や保育技術について学びます。

実務家教員			
授業方法	オリジナル作品を制作に取り組み、グループ演習を通して互いの保育技術を高めていきます。		
到達目標	知識・理解	シアターの制作方法や演じ方について必要な知識を身に付け、説明することができる	△
	思考・判断・表現	対象年齢に合わせた有効な使い方、また子どもの気持ちや反応に判断しながら表現することができる	◎
	技能	オリジナルのシアターを用いて、様々な場面に合わせて演じることができる	◎
	関心・意欲・態度	豊かな感性を養い、理想の保育者像を描きながら、積極的に取り組むことができる	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
作品	-	20	20	-	40
レポート	10	10	-	-	20
発表	-	10	10	-	20
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	10	40	30	20	100

評価の特記事項	受講態度は学修への取り組み、課題への取り組み、準備や後片付け等の状況を総合的に評価します
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎回授業開始時に課題のチェックを行い、質問に応じていきます。
テキスト	
参考書・教材	作品制作に必要な材料は、指示に従って準備してください。資料は必要に応じて配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション シアターについて考える。 作品制作に必要な用具の準備等の説明 [課題(準備)]原案を考える。次回制作の準備（2h）
2	エプロンを制作する①　（布の裁断、かがり縫い） [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
3	エプロンを制作する②（布の裁断、かがり縫い） [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
第4回	ポケットに数字を縫い付ける① [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
5	ポケットに数字を縫い付ける② [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
6	マスコットを制作する① [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
7	マスコットを制作する② [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
8	マスコットを制作する③ [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
第9回	エプロンやポケットに面ファスナーを縫い付ける① [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
10	エプロンやポケットに面ファスナーを縫い付ける② [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
11	エプロンにポケットを縫い付ける① [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
12	エプロンにポケットを縫い付ける② [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
13	作品完成、演じ方を学ぶ [課題(準備・予習)]作品完成、発表に向けての練習（1～2h）
14	グループでの作品発表交流会 [課題(復習)]発表に向けての練習（1～2h）
15	発表とまとめ [課題(復習)]実習等での発表に向けての反省点等をまとめる

時間外での学修	毎回の課題は必ず行い、制作が遅れないように忘れ物をしないようにしてください。 子どもたちが楽しめるシアター等の保育教材に関心を持つように心がけてみましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	保育には様々な保育技術が必要です。特にシアター等の保育教材は手遊びや歌等と合わせて演じる機会が多いです。様々なレパートリーを準備し、積極的に演じる機会を見つけて、繰り返し演じることで自信をつけていきましょう。 オフィスアワー　　光井：火曜日（A307）16:10～16:40

【1C6S212】スポーツ・レクリエーションⅠ	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	垣添　忠厚・松岡　邦明
資格・制限等	特になし
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合ったニュースポーツやレクリエーションを楽しむことができます。これらニュースポーツやレクリエーションの特性について理解し、レクリエーションの中で行われる遊びや活動によってもたらされる「楽しさ」についてスポーツと関連させ、保育や地域活動等で活かせるレクリエーションを学びます。

実務家教員	垣添：特別支援学校教諭（18年）、小学校教諭（5年）		
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、主に体育館で実技を実施します。内容によって教室にて講義を実施します。		
到達目標	知識・理解	レクリエーションの特性について理解する。	○
	思考・判断・表現	保育者として、レクリエーションの方法について理解し、実践することができる。	◎
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。	◎
	関心・意欲・態度	レクリエーション活動の中で、仲間と協力することができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
発表	10	-	10	-	20
レポート	10	10	-	-	20
自己評価	-	10	-	-	10
課題提出	-	10	10	-	20
受講態度	-	-	10	20	30
合　計(点)	20	30	30	20	100

評価の特記事項	発表(各自1回)、課題提出(2回)、毎回のレポートと自己評価を基に評価します。受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。
ＩＣＴ活用	日本レクリエーション協会のホームページを活用してレクリエーション活動を学びます。
課題に対するフィードバック	レクリエーションの発表等の他者評価を共有します。
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益財団法人　日本レクリエーション協会　(1,980円)ISBN:978-4-931180-95-6 『レクリエーション支援の方法（楽しさをとおした心の元気づくり）』公益財団法人　日本レクリエーション協会　(880円)
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス/理論（レク科目1）　楽しさと元気づくりの方法（担当教員：垣添） ・日本レクリエーション協会のホームページ(レクぽ）に登録する。 ・レクリエーションとレクリエーション・インストラクターの目的・役割について学ぶ。 ・心の元気づくりを促す、レクリエーション活動の体験 ［課題（復習）］学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
2	実技(レク科目4)：信頼関係づくりの方法・ホスピタリティー１（担当教員：松岡）　4/19　5限 ・仲間づくりのためのアイスブレーキング、レクリエーション活動。 ・あたたかくもてなすという意識と配慮。 ［課題（復習）］信頼関係づくりに大切な要素をレポートにまとめる。（1h～2h）
3	実技(レク科目4)：信頼関係づくりの方法・ホスピタリティー２　(担当教員：垣添) ・仲間づくりのためのアイスブレーキング、子どもを対象としたレクリエーション活動。 ・対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術 ［課題（予習）］参加プログラムと役割について確認する。（1h～2h）
4	理論（レク科目1)：ガイダンス/レクリエーション概論（担当教員：垣添） ・レクリエーションとレクリエーション・インストラクターの役割について学びます。 ・心の元気づくりを促す、レクリエーション活動 ［課題（復習）］学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
5	理論（レク科目6)：信頼関係づくりの方法（担当教員：垣添） ・ホスピタリティーの理論に基づき、ボランティアの実践での成果と課題を意見交流する。 ・信頼関係づくりの方法 ［課題（復習）］学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）(4/25）実習：信頼
6	実技：良好な集団づくりの方法１　　(引率教員：松岡）　5/27　5限 ・個別から、ペア、小集団活動、集団活動へレクリエーションを発展させるモデル活動を体験する。 ［課題（復習）］レクリエーション活動の体験から得た成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
7	演習：良好な集団づくりの方法２（担当教員：垣添） ・楽しさと心の元気づくりの方法として、ミナモ体操、ミナモダンスを実践する。 ［課題（復習）］ミナモ体操、ミナモダンスの師範演技ができるように練習する。（1h～2h）
8	実技(レク科目4)：集団レクリエーションの活動モデル（担当教員：松岡）　6/10　5限 ・集団がまとまる仕組みを生かすプログラム ［課題（復習）］レクリエーション活動を通した集団づくりの要素をまとめる。（1h～2h）
9	演習：レクリエーション支援の方法-グループワーク１(担当：垣添) ・考えてきたアイスブレーキングをグループに分かれ実践する。 ［課題（予習）］自分が取り組みたいアイスブレーキングを３つ以上選択する。（1h～2h）
10	演習：レクリエーション支援の方法-グループワーク２(担当:垣添) ・グループごとに実践するアイスブレーキングを決め、計画する。 ［課題（復習）]レクリエーションを行う計画書を深める。（1h～2h）
11	演習：レクリエーション支援の方法-グループワーク３（担当：垣添） ・グループごとに実践するアイスブレーキングの準備、リハーサルをする。 ［課題（復習）］。学修内容を振り返り、レポートにまとめる。（1h～2h）

内容	
実施回	授業内容・目標
12	実技(レク科目5)：レクリエーション支援の方法-グループ発表１ ・レクリエーション支援のためのゲーム等を展開する。 ・発表が展開したアイスブレーキングをモデルプログラムとして習得する。 ・自己評価、他者評価を行い、よりよいレクリエーション支援について考える。 ［課題（復習）］学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
13	実技(レク科目5)：レクリエーション支援の方法-グループ発表２ ・レクリエーション支援のためのゲーム等を展開する。 ・発表が展開したアイスブレーキングをモデルプログラムとして習得する。 ・自己評価、他者評価を行い、よりよいレクリエーション支援について考える。 ［課題（復習）］学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
14	実技(レク科目5)：レクリエーション支援の方法-グループ発表３ ・レクリエーション支援のためのゲーム等を展開する。 ・発表が展開したアイスブレーキングをモデルプログラムとして習得する。 ・自己評価、他者評価を行い、よりよいレクリエーション支援について考える。 ［課題（復習）］学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
15	実技（レク科目5)：集団レクリエーション活動のモデル ・身体活動を取り入れたレクリエーションゲームを習得する。 ［課題（復習）］この科目の学修内容を振り返り、主体的なレクリエーション活動への取り組みをレポートにまとめる。（1h～2h）

時間外での学修	感染症の流行による社会情勢から、レクリエーションに関連するイベントが縮小されていますが、機会を見て主体的に参加するようにしましょう。公益財団法人日本レクリエーション協会のホームページを活用し、主体的に準備、計画を進めること。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館2F)で毎週金曜日12：15～12：45です。

【1C6A213】スポーツ・レクリエーションII	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	垣添　忠厚
資格・制限等	特になし
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的理解と指導法について学びます。10月31日（土）は、学外授業となります（授業時に説明します）。

実務家教員	垣添：特別支援学校教諭(18年)、小学校教諭(5年)		
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、授業は主に体育館で実施します。		
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解し、実践することができる。	◎
	思考・判断・表現	保育者として、状況を把判断し、主体的に活動することができる。	○
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。	○
	関心・意欲・態度	レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	15	-	-	-	15
自己評価	15	-	-	-	15
発表	-	20	20	-	40
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	30	20	20	30	100

評価の特記事項	レポート、自己評価、発表(2回)、は出席カードを基に評価します。受講態度は、毎時間の取り組みを評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	ボランティア参加によるレポートを学生で共有します。
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益社団法人　日本レクリエーション協会　(1,980円)ISBN:978-4-931180-95-6 スポーツレクリエーションⅠで購入済み
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス/理論（レク科目2）：楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気 ・レクリエーションインストラクターの役割 ・楽しさを通した心の元気づくりの理解 ［課題（復習）］心の元気づくりに大切な要素をレポートにまとめる。（1h～2h）
2	実技（レク科目4)：良好な集団づくりの方法１ ・コミュニケーションワークⅠ（個人ゲーム） ［課題（予習）］個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。（1h～2h）
3	実技（レク科目4)：良好な集団づくりの方法２ ・コミュニケーションワーク（集団ゲーム） ［課題（予習）］集団ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。（1h～2h）
4	理論(レク科目2)：心の元気と地域のきずな及び学外実習の説明 ・対象者のこころの元気づくりの理解 ［課題（復習）］学修した内容を振り返り、成果と課題をノートにまとめる。（1h～2h）
5	現場実習(レク科目7）：(学外実習）岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクレーション体験コーナー（スタッフとして）１　　12/27分補講 ［課題（予習・準備）］自己の当日の日程や役割を理解し、持ち物等を準備しておく。（1h～2h）
6	現場実習(レク科目7）：(学外実習）岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクレーション体験コーナー（スタッフとして）２　　1/14分補講 ［課題（復習）］学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）
7	演習：(学外実習）岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクレーション体験コーナー（スタッフとして）３　1/15補講分 ［課題（復習）］学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）
8	理論（レク科目6)：リスクマネジメント ・参加者が安全に楽しく参加できるイベントのあり方について考える [課題(復習）]ボランティアの参加を通して、具体的な方法をレポートにまとめる。
9	演習：対象に合わせたレクリエーション・ワーク（ドッジビーを活用したゲーム） ［課題（復習）］ディスクゴルフのコースづくりを計画し、ノートにまとめる。（1h～2h）
10	実技(科目4)：自主的主体的に楽しむ力を高める展開方法 ・レクリエーションのハードル設定とアレンジ [課題(復習）]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。
11	実技(レク科目5）：モデル・プログラムの習得１ ・レクリエーション支援のための集団ゲーム１ [課題(復習）]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。
12	実技(レク科目5）：モデル・プログラムの習得２ ・レクリエーション支援のための集団ゲーム２ [課題(復習）]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。
13	実技（レク科目5）イベント企画１（グループ作り、計画準備） ・自主的、主体的にみんなで楽しめるイベント（クリスマスレクリエーション大会）を考え、計画する ［課題（予習）］クリスマス会に適したレクリエーションを提案できるよう考えをまとめる。（1h～2h）
14	実技（レク科目5)イベント企画２（企画準備・内容確認） ・仲間と協力して、分かりやすく楽しく活動できる計画に沿った準備をする。 ［課題（復習・準備）］クリスマス会の準備をし、ノートにまとめる（1h～2h）

内容	
実施回	授業内容・目標
15	演習：イベント企画３　クリスマスレクリエーション大会（発表）、まとめ、ノート（課題）の確認 ［課題（復習）］クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。（1h～2h）

時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること（参加手続きが必要な場合が有ります）。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。 オフィスアワーは研究室（H203：Ⅱ号館2F)で毎週金曜日12：15～12：45です。